

令和 6 年度実施分
協働事業・市民活動助成事業 報告書

～目次～			協働事業	市民活動助成事業	
ページ	事業名	団体名、事業担当課名		スタート 助成	ステップ 助成
p1	地域まるごとで孤育を予防する連携システム事業	まつどでつながるプロジェクト運営協議会 子ども政策課	○		
p11	町会・自治会の活動をPRして親しみをもってもらおう事業	できる街プロジェクト 市民自治課	○		
p21	四世代のさすなで、豊かな生活環境を実現する事業	小金原みんなでわくわくする会			○
p29	みんなで育て みんなでつくる 沿道の食べられる景観事業	エディブルウェイプロジェクトチーム みどりと花の課	○		
p41	まつど de SDGs の輪を広げようプロジェクト事業	まつど地域活躍塾つながりの会 政策推進課 SDGs推進担当室	○		
p55	『まつどちゃん』シリーズ製作事業	まつどアソビティ		○	
p63	「おひとりさま安心」講演会・相談会事業	特定非営利活動法人 おひとりさま安心コンシェルジュ		○	
p71	ぶどうの家 おもしろ実習教室 事業	特定非営利活動法人 葡萄の家		○	
p77	社会起業家・副業家としての創業機運醸成事業	サステナブルな市民活動研究所		○	
p85	日本語を母国語としない子どものための学習支援事業	認定NPO法人外国人の子どものための勉強会 国際推進課	○		

令和6年度実施分 協働事業・市民活動助成事業一覧

●協働事業

No.	区分	事業名・団体名・担当課	予算額		決算額		ページ
			総事業費	負担金申請額	総事業費	負担金確定額	
1	新規	みんなで育て みんなでつくる 沿道の食べられる景観事業 エディブルウェイプロジェクトチーム みどりと花の課	¥562,600	¥447,600	¥494,887	¥404,647	P29
2	3年目	町会・自治会の活動をPRして親しみをもってもらおう事業 できる街プロジェクト 市民自治課	¥780,310	¥500,000	¥559,580	¥488,772	P11
3	3年目	日本語を母国語としない子どものための学習支援事業 認定NPO法人 外国人の子どものための勉強会 国際推進課	¥905,920	¥500,000	¥949,947	¥500,000	P85
4	3年目	地域まるごとで孤育を予防する連携システム事業 まつどでつながるプロジェクト運営協議会 子ども政策課	¥250,000	¥225,000	¥243,785	¥216,688	P1
5	2年目	まつど de SDGs の輪を広げようプロジェクト事業 まつど地域活躍塾つながりの会 政策推進課 SDGs推進担当室	¥219,650	¥178,020	¥120,181	¥108,162	P41

■スタート助成

No.	区分	事業名・団体名	予算額		決算額		ページ
			総事業費	助成金申請額	総事業費	助成金確定額	
1	新規	『まつどちゃん』シリーズ製作事業 まつどアソビティ	¥140,000	¥100,000	¥114,728	¥78,246	P55
2	2年目	「おひとりさま安心」講演会・相談会事業 特定非営利活動法人 おひとりさま安心コンシェルジュ	¥163,670	¥100,000	¥20,280	¥18,252	P63
3	2年目	ぶどうの家 おもしろ実習教室 事業 特定非営利活動法人 葡萄の家	¥150,598	¥100,000	¥132,716	¥100,000	P71
4	新規	社会起業家・副業家としての創業機運醸成事業 サステナブルな市民活動研究所	¥190,000	¥100,000	¥191,228	¥93,276	P77

■ステップアップ助成

No.	区分	事業名・団体名	予算額		決算額		ページ
			総事業費	助成金申請額	総事業費	助成金確定額	
1	新規	四世代のきずなで、豊かな生活環境を実現する事業 小金原みんなでわくわくする会	¥305,640	¥249,876	¥354,961	¥249,876	P21

地域まるごとで孤育てを予防する連携システム事業

まつどでつながるプロジェクト運営協議会

子ども政策課

活動状況報告書

1 事業名称 地域まるごとで孤育てを予防する連携システム事業

2 実施主体

■団体名： まつどでつながるプロジェクト運営協議会

従事者数： 3名

団体概要： 公的支援が届きづらい、制度からこぼれ落ちてしまいがちな子育て家庭が身近な地域やサポートにつながる、抱え込まず「助けて」と声をあげられるよう地域全体で温かく迎え入れられる環境を作り、「孤立する子育てを防ぐ」ことを目的として様々な事業に取り組んでいます。

■事業担当課： 子ども政策課

3 事業を実施する上での役割分担

■団体の役割

- ・事業内容の企画立案、運営実施における全般
- ・講師への依頼、実施における調整
- ・主に民間で子育て支援に関わる方やその他参加者への声掛け、調整

■担当課の役割

- ・事業内容に対する行政機関としてのフィードバック、庁内の各課との調整、出席依頼
- ・市のホームページや広報まつどなどによる行政としての広報活動
- ・公共施設利用にあたっての調整

4 事業の実施内容（事業計画の事業内容に書かれた事業毎に分けて記載）

(1) 事業内容

① 子育て当事者の声を真ん中にした地域円卓会議の実施

※以下、内部…まつどでつながるプロジェクト運営協議会にて実施

2者…子ども政策課およびまつどでつながるプロジェクト運営協議会にて実施

日 付	作 業 内 容
4月12日	年間の事業計画の打ち合わせ（2者）
5月14日	第1回円卓会議についての検討、打ち合わせ（2者）
6月12日	第1回円卓会議に向けての検討、打ち合わせ（2者）
6月19日	第1回円卓会議に向けての参加者への声掛け・連絡（内部）

7月4日	第1回円卓会議に向けての検討、打ち合わせ（2者）
7月9日	第1回円卓会議に向けての準備（内部）
7月10日	第1回円卓会議の開催（2者） 参加者 30 名 テーマ「乳幼児期における子育ての孤立」
7月17日	第1回円卓会議のふりかえり（2者）
8月23日	第1回検討ワークショップに向けての検討、打ち合わせ（2者）
9月13日	第2回円卓会議に向けての参加者への声掛け・連絡（内部）
9月20日	第2回円卓会議に向けての検討、打ち合わせ（2者）
10月7日	第2回円卓会議の準備（内部）
10月8日	第2回円卓会議の開催（2者） 参加者 51 名 テーマ「児童期における子どもを取り巻く孤立」
10月17日	第2回円卓会議のふりかえり（2者）
10月24日	第2回円卓会議のレポート作成およびホームページへの掲載
10月28日	第1回検討ワークショップの開催（2者） 参加者 11 名 テーマ「困難家庭に対する官民連携の具体的な方法についての検討」
11月14日	第3回円卓会議に向けての検討、打ち合わせ（2者）
11月15日	第3回円卓会議に向けての共催者との打ち合わせ（内部）
11月19日	第2回検討ワークショップの開催（2者） 参加者 19 名 テーマ「気になる子育て家庭に対して連携でできることを考える」
12月2日	第3回円卓会議に向けての参加者への声掛け・連絡（内部）
12月18日	第3回円卓会議に向けての検討、打ち合わせ（2者）
12月25日	第3回円卓会議の開催（2者） 参加者 46 名 テーマ「青年期における若者の孤立、支援者の課題共有」
1月23日	第3回円卓会議のふりかえり（内部）
1月24日	第3回円卓会議のふりかえり、第3回検討ワークショップの開催についての打ち合わせ（2者）
1月29日	第3回円卓会議のレポート作成およびホームページへの掲載
2月20日	次年度に向けた体制、協働事業についての検討（2者）
2月26日	第3回検討ワークショップの開催 参加者 15 名 テーマ「支援者間の連携を高めるためにできること」
2月28日	第2回検討ワークショップのレポート作成およびホームページへの掲載（内部）

②孤育てを予防する「子育て市民サポーター養成講座」の普及

日 付	作 業 内 容
4 月 12 日	年間の事業計画の打ち合わせ（2 者）
5 月 14 日	講演会の内容についての打ち合わせ（2 者）
6 月 3 日	昨年度の受講生に声をかける企画の検討（内部）
6 月 12 日	講演会における講師との打ち合わせ（2 者）
7 月 4 日	講演会および養成講座に向けた検討（2 者）
10 月 21 日	市の広報掲載依頼（内部）
10 月 17 日	講演会および養成講座の内容検討、打ち合わせ（2 者）
10 月 27 日	講演会および養成講座に向けた準備（内部） チラシ・テキストのデザインの依頼、打ち合わせ
11 月 9 日	参加者募集のためのチラシ印刷、ホームページ・Facebook・Instagramでの広報（内部）
11 月 14 日	講演会実施のための準備、連続講座の広報掲載依頼（2 者）
12 月 15 日	講演会の実施 参加者 38 名 講師：ぼうだあきこさん（NPO 法人 孫育て・ニッポン 理事長）
12 月 18 日	講演会のふりかえり、養成講座の打ち合わせ（2 者）
12 月 24 日	連続講座の広報、チラシ配布（内部）
1 月 7 日	講演会のレポート作成およびホームページでの掲載
1 月 20 日	第 1 回養成講座の実施（2 者） 参加者 8 名 講師 石川静枝氏、山田美和氏（当会マネージャー・代表）
1 月 24 日	第 1 回養成講座のふりかえり、第 2 回の打ち合わせ（2 者）
2 月 3 日	第 2 回養成講座の実施、第 3 回の打ち合わせ（2 者） 参加者 7 名 進行 野際里枝氏
2 月 17 日	第 3 回養成講座の実施（2 者） 参加者 7 名 進行 野際里枝氏
2 月 16 日	養成講座のふりかえりの打ち合わせ（2 者）
2 月 28 日	養成講座のレポートおよびホームページへの掲載

(2) 事業内容のふりかえり

事業計画に記載した内容は全て実施することができました。またスケジュールも概ね予定していた通りに実施しました。協働事業としては節目となる 3 年目ということもあり、これまでのふりかえりとしてアンケートを実施しました。その結果、22 件の回答があり 86.4%の方が円卓会議によってつながりが広がった、得られることがあったと回答いただきました。予算についてもほぼ予定通り執行しました。 <以下、2 事業についての詳細>

●地域円卓会議

…円卓会議の参加人数は計画していたよりも多く、延べで 127 名（平均 42 名）でした。特に今年度は市のスクールソーシャルワーカーの方々に多数参加いただき、児童期や青年期における教育と福祉の連携について対話を深めることができました。

第 1 回では乳幼児期における孤立をテーマに話し合われ、「それぞれができること、できないことが可視化されて、顔の見える関係の中でつなぐことができる見通しが持てた」という感想が見られました。さらに検討ワークショップではこども家庭センターの方を交えて、特に困難ケースや虐待の懸念のある家庭に対する官民連携の糸口について話し合いました。

第 2 回では、児童期に関するテーマで、やはり不登校やひきこもりがちな家庭に対する関わり方が多く取り上げられました。検討ワークショップでは参加した保護者の声から、発達に凸凹のある子の支援について、対話の中で具体的に連携できそうな事例も生まれました。

第 3 回は「松戸市子ども・若者の支援を考える会実行委員会」との共催で、福祉専門職や学校関係者も多数参加する回となりました。支援者がそれぞれ抱えている不安、もやもや感じていることについて共有し、お互いに何ができるのか、居場所についての検討や情報交換が行われました。第 3 回の検討ワークショップでは引き続き、情報交換するためのツールについて話し合い、その結果 LINE のオープンチャットを開設することになりました。

●市民サポーター養成講座

…街のいたる場面で子育てをあたたく見守る市民を増やすことを目的として、講演会および連続講座を開催しました。今年度の講演会では特にシニア層にターゲットを絞り、広く関心を持ってもらうために「孫育て・他孫育て」というテーマで企画し、NPO 法人孫育てにつぼんの代表の方に講師に来ていただきました。内容としては子育てを取り巻く環境の変化と現在の特徴、また子どもに関わる上で変わらずに大切にすべきことをお話いただきました。参加人数についてはオンラインによる配信も併用し、延べで 38 名と目標の 50 名までは達することができなかったものの、その後のアーカイブによる配信を希望する方を含めると 53 名に周知することができました。

連続講座については提案時点で 2 年目の講座を実施していなかったため、3 年目に向けてカリキュラムの見直しなども行う予定でしたが、2 年目の受講生アンケートやフィードバックが好評だったことを踏まえて、3 年目も同様の内容で行うこととしました。広報としては講演会に参加した方を含めて広く周知しましたが、参加者は 8 名と目標の 20 名に達することができませんでした。昨年度に引き続き、進行およびグラフィックレコーディングとして講師に協力いただきました。講義の中では現在 1 歳前後のお子さんを育てている女性 2 名にご協力いただき、現在の子育ての状況や悩み、地域の人たちに感じていることを話していただきました。昨年度の受講生の方々に声をかけ、活動についての検討を行った結果、子育て家庭とつながるイベントにおいて 3 名の方にボランティアに参加いただきました。

また連続講座を修了したサポーターと、支援を必要としている子育て家庭とマッチングする体制について、サポーターへのヒアリングを行いました。活動までつながることができませんでした。

5 事業成果について（事業計画の事業の目標に書かれた項目毎に分けて記載）

・目標の達成と課題の解決について

- ① 地域円卓会議について…開催回数としては円卓会議および検討ワークショップともに3回ずつ開催しました。参加者人数としては延べ127名となり、目標としていた80名を大きく越えて参加いただくことができました。また目的としていた、対話から実践につながる事例については、特に児童期編においてスクールソーシャルワーカーの方々に複数名参加いただき、かつ対話のグループで比較的近隣で活動している方とつながったことで、実際に関わっている子どもの事例において紹介に至ったと伺っています。
- ② 市民サポーター育成について…連続講座の周知も兼ねた目的として行った講演会について目標としていた50名にリアル参加の方は38名（リアル33名、オンライン5名）となりました。またアーカイブでの後日配信した方を合わせると53名になりました。また連続講座の参加者人数としては、最終的な修了生が8名となり目標としていた20名には達することができませんでした。今後はこれまで受講いただいた方々にボランティアとして、当団体の活動を含めて円卓会議などに参加いただいている団体などの情報や協働する担当課が関係する市主催のイベントや事業の情報をお伝えしていきます。

6 今後の事業展開

- ① 地域円卓会議について…提案制度を終え、現在担当課と協定書を交わす等の形式で継続していくことを検討しています。今後も官民の支援者がフラットな関係を築ける場を開いていくことで連携の糸口を作っていきたいと考えています。またそれぞれの現状を共有できる対話に加えて、市として共通課題となるテーマについて学び合える勉強会や研修といった内容も検討していきます。
- ② 市民サポーター養成について…提案制度の中で3年間実施し、子どもや子育てに特化して地域で活動する人材を育成する重要性を再認識する一方、子育て支援員やファミリーサポートといった具体的な活動との区別がつきづらいことや、シニア層が現役で仕事に忙しいといった背景も加わり、講座の形式で集客することに課題がありました。今後は講座や講演会ではなく、既存にある仕組みや人材の制度に対して、これまで培ってきたカリキュラムの要素を展開していきたいと考えています。

収支決算書

【労力換算（限度額算入）】

（単位：円）

区分	科 目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 270,600	¥ 290,358	¥ ▲19,758	※別紙 労力換算計算書 参照

【収 入】

区分	科 目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 5,000	¥ 19,097	¥ ▲14,097	団体の会計より拠出
	参加費	¥ 20,000	¥ 8,000	¥ 12,000	養成講座参加費（1,000円×8名）
				¥ 0	
				¥ 0	
	自己資金の合計額（B）	¥ 25,000	¥ 27,097	¥ ▲2,097	
市	協働事業負担金（C）	¥ 225,000	¥ 216,688	¥ 8,312	←精算額
合計額（D）＝（B＋C）		¥ 250,000	¥ 243,785	¥ 6,215	

【支 出】

区分	科 目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 170,000	¥ 175,000	¥ ▲5,000	レポート謝礼 麓氏 20,000円 外部講師謝礼 棒田氏 100,000円 外部講師謝礼 野際氏 45,000円 外部ゲスト謝礼 佐野氏 5,000円 外部ゲスト謝礼 石井氏 5,000円
	消耗品費	¥ 11,000	¥ 5,935	¥ 5,065	円卓会議ワークショップ用消耗品費 3,735円 養成講座講演会ワークショップ消耗品 2,200円
	印刷製本費	¥ 39,000	¥ 29,830	¥ 9,170	資料印刷費（円卓会議、検討WS） 14,350円 チラシ印刷（養成講座） 8,380円 テキスト印刷費（養成講座） 7,100円
	委託料	¥ 30,000	¥ 30,000	¥ 0	デザイン費 徳永氏（養成講座チラシ）30,000円
				¥ 0	
				¥ 0	
				¥ 0	
	対象経費の合計（E）	¥ 250,000	¥ 240,765	¥ 9,235	
（その他経費）	支払い手数料	¥ 0	¥ 1,820	¥ ▲1,820	振込手数料
	送料	¥ 0	¥ 1,200	¥ ▲1,200	送料
				¥ 0	
	その他経費の合計額（F）	¥ 0	¥ 3,020	¥ ▲3,020	
合計額（G）＝（E＋F）		¥ 250,000	¥ 243,785	¥ 6,215	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金（C）が、対象となる経費（E）欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金（C）が、自己資金（B）欄に労力換算額（A）欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。
- 4 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。

精算額	¥ 8,312
-----	---------

収支内訳書

【収 入】

区分	科 目	金 額	内訳・説明事項
団体	団体拠出金	¥ 19,097	団体の会計より拠出
	参加費	¥ 8,000	養成講座参加費（1,000円×8名）
	自己資金の合計額	¥ 27,097	
市	松戸市負担金	¥ 216,688	
合 計 額		¥ 243,785	

【支 出】

	科 目	金 額	内訳・説明事項（用途など）
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 175,000	レポート謝礼 麓氏（円卓会議・講演会・養成講座など4回×5,000円）＝20,000円 外部講師謝礼 棒田氏（公開講演会1回×100,000円）＝100,000円 外部講師謝礼 野際氏（連続講座3回×15,000円）＝45,000円 外部ゲスト謝礼 佐野氏 5,000円 外部ゲスト謝礼 石井氏 5,000円
	消耗品費	¥ 5,935	ワークショップ用付箋、サインペン、模造紙、テープ 2,420円＋110円＋1,205円＝3,735円 養成講座講演会におけるワークショップ消耗品（折り紙など） 2,200円
	印刷製本費	¥ 29,830	資料印刷費（円卓会議、検討WS） 4,800円＋4,000円＋1,350円＋1,200円＋3,000円＝14,350円 チラシ印刷（養成講座） 5,270円＋3,110円＝8,380円 テキスト印刷費（養成講座） 4,250円＋850円＋2,000円＝7,100円
	委託料	¥ 30,000	デザイン費 徳永氏（養成講座チラシ）30,000円
	対象経費の合計	¥ 240,765	
その他経費	支払手数料	¥ 1,820	330円＋550円＋550円＋195円＋195円＝3,020円
	送料	¥ 1,200	チラシ送料
	その他経費の合計	¥ 3,020	
合 計 額		¥ 243,785	

労力換算計算書

(単位：円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×1026円
	円卓会議打合せ	20,520 円	2 人 × 1 h × 10 回 × 1026 円
	円卓会議準備	18,468 円	2 人 × 3 h × 3 回 × 1026 円
	円卓会議本番	36,936 円	3 人 × 4 h × 3 回 × 1026 円
	検討ワークショップ準備	18,468 円	2 人 × 3 h × 3 回 × 1026 円
	検討ワークショップ実施	27,702 円	3 人 × 3 h × 3 回 × 1026 円
	円卓会議ふりかえり	18,468 円	3 人 × 2 h × 3 回 × 1026 円
	養成講座打合せ	16,416 円	2 人 × 1 h × 8 回 × 1026 円
	養成講座準備	41,040 円	2 人 × 4 h × 5 回 × 1026 円
	養成講座本番	61,560 円	3 人 × 4 h × 5 回 × 1026 円
	養成講座ふりかえり	30,780 円	2 人 × 3 h × 5 回 × 1026 円
合 計 (A)		290,358 円	

町会・自治会の活動をPRして
親しみをもってもらおう事業

できる街プロジェクト

市民自治課

活動状況報告書

1 事業名称 町会・自治会の活動をPRして親しみをもってもらおう事業

2 実施主体

■団体名： できる街プロジェクト

従事者数： 15名

団体概要： 2015年10月設立のNPO企画団体・市民公益活動団体。

本会は、地域活性化を目的とし、各々のやりたいことの実現を目指した企画・運営を行う。主にアニメ・漫画を使った市のPR活動、障害者支援、引きこもり支援など多岐にわたり活動。

■事業担当課： 市民自治課

3 事業を実施する上での役割分担

■団体の役割

・脚本、漫画、アニメの作成 ・団体のYouTubeに投稿 ・SNSによるPR ・冊子の制作

■担当課の役割

・効果の見込める内容、PRしたい内容のピックアップ
・ヒアリングする町会・自治会選定
・町会・自治会との連携、調整 ・制作物の内容の確認、修正
・プレスリリース ・松戸市のYouTubeに投稿、マルチリンガル対応
・松戸市役所、支所等に設置されている電子モニターでのPR ・SNSによるPR

4 事業の実施内容（事業計画の事業内容に書かれた事業毎に分けて記載）

(1) 事業内容

A. 松戸市町会・自治会PR内容の調査・ヒアリング

日 付	作 業 内 容
4/1～6/30	内容調査・ヒアリング ※事業開始前に取材 3/19 新松戸地区会（第11話：地区会について） 3/27 明第2東地区会（第11話：地区会について）

B. 松戸市町会・自治会 PR 漫画の制作・公開

日 付	作 業 内 容
7/1～2/14	第 11 話～第 12 話 制作 ・ラフ案・漫画制作 ・仕上げ依頼 ・完成後の色チェック
2/15	第 11 話～第 12 話 できる街プロジェクト及び市の HP にて公開

C. 松戸市町会・自治会 PR アニメの制作・公開

日 付	作 業 内 容
7/1～10/2	第 11 話～第 12 話 制作 ・台本制作・印刷 ・映像制作 ・BGM 制作 ・効果音制作
10/15	音声収録 ・出演声優（村田綾野、萱沼千穂、松木威人、月野もあ、能登有沙） ・収録会場：プラチナムガレージ ・音響機材使用
12/12	第 11 話アニメ できる街プロジェクト及び市の HP にて公開
2/15	第 12 話アニメ できる街プロジェクト及び市の HP にて公開
3/19	第 2 話～第 12 話アニメのマルチリンガル版を公開

D. 松戸市町会・自治会 PR 漫画冊子の制作・無料配布

日 付	作 業 内 容
6/1～8/30	内容検討（松戸市） ・追加ページの内容制作 ・表紙（案）の制作
11/1～2/28	外部イラストレーターへ冊子仕上げ依頼
2/28～3/15	印刷発注
3/15～	松戸市への転入者を対象に、16,000 部の漫画冊子を制作 （市民課 2,000 部、8 支所各 500 部ずつ、松戸市役所連絡通路での加入促進パネル展示にて配布）

E. 宣伝・プレスリリース

日 付	作 業 内 容
10/14	J : COMチャンネルでの紹介
12/1～2/28	フライヤー・ポスター デザイン制作
2/1～2/28	電子モニターにて、プロモーション映像の放映
2/28	フライヤー・ポスター 印刷依頼
3/14～	フライヤー・ポスター 配布 (市民課、8 支所の窓口及び市内公共施設にて各 10 部ずつチラシ配架・ポスター掲示)

(2) 事業内容のふりかえり

A. 松戸市町会・自治会 PR 内容の調査・ヒアリング

町会・自治会の代表的な活動内容の提案及びその活動を活発的に行っている町会長との調整を市民自治課が行い、対面での取材を合同で実施した。

消耗品費については、インク・プリンタ用紙の価格上昇により、予算より若干増額となった。

B. 松戸市町会・自治会 PR 漫画の制作・公開

C. 松戸市町会・自治会 PR アニメの制作・公開

松戸市町会・自治会キャラクターたちが登場する町会・自治会の活動をストーリー仕立てで紹介する漫画・アニメを制作。制作にあたっては、多くの人に興味を持ってもらえるよう小学生から高齢の方まで幅広い世代が参加する音楽祭や運動会のイベントを取り上げた。また、町会・自治会のイベント開催にあたる苦労だけでなく、実際に地域の人と交流している様子ややりがいと構成の中心とすることで、活動に前向きな印象を持ってもらえるよう心掛けた。制作物は団体の HP・SNS の他、市の HP・広報誌等にて発信した。アニメの公開にあたっては、英語・中国語・ベトナム語の字幕をつけ、外国人の方にも地域への理解を深めてもらえるようにした。

報償費、使用料及び賃借料について、2 回の音声収録を予定していたが、収録音声漏れがなく、1 回の収録となったため、減額となった。

D. 松戸市町会・自治会 PR 漫画冊子の制作・無料配布

これまでの期間に制作した内容（第 1 話～第 12 話）を 1 冊にまとめた冊子を制作し、松戸市の転入者向けに無料配布した。制作した漫画に加え、おまけコーナーとして、松戸市で取り組んでいるクリーンデーやウォーキングマップを掲載し、様々な角度から地域活動に興味を持ってもらえるよう工夫した。

印刷製本費について、町会・自治会 PR 漫画冊子をより多く制作・配布できるよう、用紙の種類・製本方法・印刷業者を再検討した。その結果、当初制作部数は 3,000 部の予定だった

ところ、16,000 部を制作することができた。また、ポスター・フライヤーの印刷部数についても、公共施設の状況等から配布部数を見直したことで支出を抑え、漫画冊子の印刷費用に充てた。

委託料の漫画冊子仕上げ委託費については、印刷業者の変更をしたことで内容と仕様の修正が発生したため、若干の増額となった。

E. 宣伝・プレスリリース

団体の HP・SNS の他、市の HP・SNS・広報誌等にて発信し、全国のより広い地域へ、本事業を知ってもらい、大きな注目を集めるよう取り組んだ。本事業の内容について周知するためのポスター・フライヤーを制作し、市民課や 8 支所の窓口及び市内公共施設にて配架・掲示を行った。本庁舎 3 カ所及び 8 支所の電子モニターでプロモーション映像を放映した。

また、市が開催するイベントでの周知に積極的に取り組んだ。11/23 にテラスモール松戸で行われた「祝 松戸市人口 50 万人到達メモリアル感謝祭」にてアニメの上映やキャラクターの紹介を行った。さらに、1/13 に森のホール 21 で行われた「令和 7 年松戸市二十歳の成人式」では、会場でのスライド上映による啓発及び漫画冊子の配架を行った。

5 事業成果について（事業計画の事業の目標に書かれた項目毎に分けて記載）

・目標の達成と課題の解決について

●目標の達成

①漫画制作【制作漫画数：2 話、SNS での視聴回数：10,000 回】《3/31 時点》

→X 視聴回数

第 11 話：3,954 回、第 12 話：2,776 回

②動画制作【制作動画数：2 本、SNS での視聴回数：10,000 回】《3/31 時点》

→

団体 ・YouTube 千葉のテガちゃんネル

第 11 話：175 回、第 12 話：209 回

・X

第 11 話：13,427 回、第 12 話：4,620 回

松戸市 ・まっちゃんねる（まっちゃんねるでは聴覚に障害のある方等に配慮し、字幕表記を行っているため、第 11 話・第 12 話については字幕版を作成中）

③無料配布用漫画冊子【1 冊（28P 程度）、制作冊数：3,000 部】《3/31 時点》

→約 5,000 部配布

④2024 年度の町会・自治会加入率【2020 年度と同等の加入率 67.85%】

→R7/3/31 時点 64.8%

●課題の解決

制作した漫画やアニメを広く周知することにより町会・自治会活動の認知度向上を図り、親しみを持ってもらったうえで加入率につなげ、人員不足の解消を目指したい。本事業はすぐに効果が表れるものではないと考えられるため、継続して周知を実施することで、少しずつ効果が出ていくことを期待している。

6 今後の事業展開

- ・令和7年4月中旬から市内の小・中学校へ漫画冊子の周知を行う。
- ・令和7年5月上旬に町会・自治会へ漫画冊子を配布し、加入活動や活動の活発化に役立ててもらおう。
- ・市が開催するイベント等でアニメの上映や漫画冊子の配布、ポスター掲示等を継続して行っていく。

収支決算書

【労力換算（限度額算入）】

（単位：円）

区分	科 目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	労力換算額 （Ａ）	¥ 531,360	¥ 689,472	¥ ▲158,112	※別紙 労力換算計算書 参照

【収 入】

区分	科 目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 280,310	¥ 70,808	¥ 209,502	事業費の一部を団体の会計より拠出
				¥ 0	
				¥ 0	
				¥ 0	
	自己資金の合計額（Ｂ）	¥ 280,310	¥ 70,808	¥ 209,502	
市	協働事業負担金（Ｃ）	¥ 500,000	¥ 488,772	¥ 11,228	←精算額
	合計額（Ｄ）＝（Ｂ＋Ｃ）	¥ 780,310	¥ 559,580	¥ 220,730	

【支 出】

区分	科 目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 154,000	¥ 77,000	¥ 77,000	声優出演費 16,500円×1名×1回＝16,500円 声優出演費 27,500円×1名×1回＝27,500円 声優出演費 33,000円×1名×1回＝33,000円
	消耗品費	¥ 6,630	¥ 8,360	¥ ▲1,730	インク（カラー6色セット） 7,380円×1箱＝7,380円 プリンタ用紙 980円（500枚入り）＝980円
	印刷製本費	¥ 387,280	¥ 276,720	¥ 110,560	ポスター印刷費 31.9円×100枚＝3,190円 フライヤー印刷費 4.12円×500枚＝2,060円 台本発注費 20部 4,310円 漫画冊子発注費 16,000部 267,160円
	使用料及び賃借料	¥ 110,000	¥ 53,000	¥ 57,000	スタジオ使用料 20,000円×1回＝20,000円 音響機材レンタル費 33,000円×1回＝33,000円
	委託料	¥ 118,000	¥ 128,000	¥ ▲10,000	BGM制作費 10,000円×2話＝20,000円 漫画仕上げ代 24,000円×2話＝48,000円 漫画冊子仕上げ委託費 60,000円×1冊＝60,000円
				¥ 0	
				¥ 0	
				¥ 0	
	対象経費の合計（Ｅ）	¥ 775,910	¥ 543,080	¥ 232,830	
（その他経費）	交通費	¥ 4,400	¥ 0	¥ 4,400	
	報償費	¥ 0	¥ 16,500	¥ ▲16,500	団体構成員 声優出演費
				¥ 0	
	その他経費の合計額（Ｆ）	¥ 4,400	¥ 16,500	¥ ▲12,100	
	合計額（Ｇ）＝（Ｅ＋Ｆ）	¥ 780,310	¥ 559,580	¥ 220,730	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金（Ｃ）が、対象となる経費（Ｅ）欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金（Ｃ）が、自己資金（Ｂ）欄に労力換算額（Ａ）欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。
- 4 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。

精算額	¥ 11,228
------------	----------

収支内訳書

【収 入】

区分	科 目	金 額	内訳・説明事項
団体	団体拠出金	¥ 70,808	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額	¥ 70,808	
市	松戸市負担金	¥ 488,772	
合 計 額		¥ 559,580	

【支 出】

	科 目	金 額	内訳・説明事項（用途など）
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 77,000	声優出演費 16,500円×1名×1回=16,500円 声優出演費 27,500円×1名×1回=27,500円 声優出演費 33,000円×1名×1回=33,000円
	消耗品費	¥ 8,360	インク（カラー6色セット） 7,380円×1箱=7,380円 プリンタ用紙 980円（500枚入り）=980円
	印刷製本費	¥ 276,720	ポスター印刷費 31.9円×100枚=3,190円 フライヤー印刷費 4.12円×500枚=2,060円 台本発注費 20部 4,310円 漫画冊子発注費 16,000部 267,160円
	使用料及び賃借料	¥ 53,000	スタジオ使用料 20,000円×1回=20,000円 音響機材レンタル費 33,000円×1回=33,000円
	委託料	¥ 128,000	BGM制作費 10,000円×2話=20,000円 漫画仕上げ代 24,000円×2話=48,000円 漫画冊子仕上げ委託費 60,000円×1冊=60,000円
	対象経費の合計	¥ 543,080	
その他経費	報償費	¥ 16,500	団体構成員 声優出演費
	その他経費の合計	¥ 16,500	
合 計 額		¥ 559,580	

労力換算計算書

(単位：円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×1026円
	企画打合せ（10回）	51,300 円	5 人 × 1 h × 10 回 × 1026 円
	漫画打合せ（3回）	6,156 円	2 人 × 1 h × 3 回 × 1026 円
	アニメ打合せ（5回）	10,260 円	2 人 × 1 h × 5 回 × 1026 円
	BGM打合せ（2話）	6,156 円	2 人 × 1 h × 3 回 × 1026 円
	脚本・漫画ラフ制作（2話）	410,400 円	1 人 × 100 h × 4 回 × 1026 円
	動画制作（2話）	205,200 円	1 人 × 100 h × 2 回 × 1026 円
	合 計 （A）	689,472 円	

四世代のきずなで、豊かな生活環境を実現する事業

小金原みんなでわくわくする会

活動状況報告書

1 事業名称 四世代のきずなで、豊かな生活環境を実現する事業

2 実施主体

■団体名： 小金原みんなでわくわくする会

従事者数： 10名

団体概要： 本会は、次に掲げる活動を行うことにより、地域における身近な課題を住民の意思に基づき自主的に解決し、もって良好な地域社会の維持及び地域の発展に資することを目的とする。

- 1) 四世代全員参加の地域活動を通した「ありがとう！」の街づくり
- 2) 現在の地域活動を SDGs 観点から整理、推進すること
- 3) 地域の SWOT（強み弱み）分析から、活動テーマを抽出し、具体的活動を立案、実行する。

3 事業の実施内容（事業計画書の事業内容に書かれた事業毎に分けて記載）

(1) 事業内容

①グリスロの活性化

日 付	作 業 内 容
5月19日	第9回 SDGs 活動会 11名参加、4グループの班長メンバー確定と年度計画作成
	①自分で乗ってみて利便性評価する、活用し易い方法、運行地図の配布
8月18日	第10回 SDGs 活動会 14名参加；松戸市 SDGs 推進担当室参観；活動の進捗と見直し ① グリスロは、地理的にあまりメリット見いだせず活動休止とした。 ・5名で試乗（根木内一テラスモール）帰りの便が40分後で、買い物時間が少ない

②高齢者支援 ④町会館の活性化（活動を統合）

日 付	作 業 内 容
5月19日	第9回 SDGs 活動会 11名参加、4グループの班長メンバー確定と年度計画作成
	② 高齢者の予備知識の普及；エンディングノート、成年後見制度等計画 ④ふれあいサロンの実施による情報交換
7月28日	防災体験ツアー：千葉県西部防災センター（町会共催）（17名参加、内2名小学生） ・チラシ作成、地震・暴風雨シミュレーション、消防・AEDの体験実習
8月18日	第10回 SDGs 活動会 14名参加；松戸市 SDGs 推進担当室参観；活動の進捗と見直し ②④は併せて一本化⇒②④高齢者の予備知識普及およびふれあいサロンに絞って活動することとした。
9月25日	②④エンディングノート内容確認と資料準備打合せ（3名参加）
10月13日	第11回 SDGs 活動会 15名参加；②④テーマ開催予定説明

	②④第1回町民講座；エンディングノート勉強会・ふれあいサロン 14名参加
12月22日	②④第2回町民講座；成年後見制度・ふれあいサロン 11名参加
2月2日	第12回SDGs活動会 参加者10名；本年度総括と来年度の計画概要説明
	②④第3回町民講座；認知症について・サロン会 10名参加

③落葉の堆肥活用化

日 付	作 業 内 容
5月19日	第9回SDGs活動会 11名参加、4グループの班長メンバー確定と年度計画作成
	③コンポスト計画・具体化構想策定、公園使用許可申請と花き栽培申請
5月26日	③コンポスト計画地確認 3名立会
7月17日	③やまばと公園花き栽培用花き、肥料購入 4名参加
7月21日	③やまばと公園花き栽培 11名参加
7月29日	③市街づくり部公園緑地課およびみどりとの課；やまばと公園来場調査 4名立会
8月16日	③緑化愛護団体登録申込⇒9/13 花苗130株と肥料の配布いただく
8月18日	第10回SDGs活動会 14名参加；松戸市SDGs推進担当室参観；活動の進捗と見直し
9月15日	③やまばと公園南西角及び八重桜周辺の除草開墾・花植え 10名参加
9月17日	③コンポスト設置申請(町づくり部公園緑地課)⇒10/24 設置許可受領
10月13日	第11回SDGs活動会 15名参加；③の活動計画説明
11月17日	③コンポスト設置作業及び落葉の集積投入 14名参加
R7 1月19日	③公園内落葉拾いとコンポスト集積・攪拌 約25名参加
2月2日	第12回SDGs活動会 参加者10名；本年度総括と来年度の計画概要説明
2月9日	③花壇用柵の竹伐採と縦カット（不要竹の活用） 6名参加
2月16日	③公園内落葉拾いとコンポスト集積及び米ぬかとEM菌投入攪拌 約22名参加
3月9日	③コンポストの腐葉土化状況確認と攪拌 約20名参加
3月19日	③みどりと花の課より支給頂いた花をやまばと公園花壇に植える 6名参加

⑤第2回四世代交流会

日 付	作 業 内 容
5月13日	⑤根木内小校長先生と交流会の趣旨説明と体育館の会場使用を依頼し、11/10に決定
6月20日	⑤ニシヤンバンド及びフラダンスメンバー及び時間、出し物確認（3名及び代表者）
10月13日	第11回SDGs活動会 15名参加；⑤四世代交流会概要説明
10月23日	⑤第2回四世代交流会開催案内チラシ配布 200部
10月30日	⑤第2回四世代交流会開催出欠表配布 200部
11月9日	⑤会場下見及び当日の準備内容について各担当より説明 10名参加
11月10日	⑤第2回四世代交流会（根木内小体育館）（町会共催） 合計87名参加；小学生以下6名、13-17才3名、18-64才19名、65才以上59名
11月10日	⑤第2回四世代交流フェア反省会（14名参加） ・地元の音楽演奏、フラダンスは良かったが、子供が楽しめるメニューが少なかった

	・子供の参加を増やすため、日時を早く確定(7又は9月)して、PTA等の協力を仰ぐ ・小金原全町会へ案内を流す
--	---

(2) 事業内容のふりかえり

当初、4項目の活動テーマを設定していたが、①グリスロについては、試乗体験の結果、小金原三丁目周辺地域では、地理的に乗車活用メリットが出しにくく、即効果を出すのが難しいと判断し、また、②、④については、当面の具体的活動が同じ目的内容となるため、グループを統合して活動することとした。

②④に関する活動として、高齢者向けの町民講座を3回開催し、エンディングノートの冊子配布や、認知症の進行度確認等実践的、具体的な内容となった。その後開催のふれあいサロンで感想等意見交流も行った。一方、④町会館活用の一環として、町民講座の中に、夏休み子ども宿題相談を計画したが、講師の確保選定、子供達への周知、対象内容の確定が間に合わず未実施となった。また、勉強会の資料は、当会内で準備を想定して消耗品費で計上したが、一部、当会外の印刷製本となり、費目の変更計上となった。

③落葉の堆肥活用化については、コンポストの設置を完了し、公園内落葉投入、堆肥化の目途が付いた。また、花き栽培についても公園内2ヶ所については花苗の市からの供給も頂き、計画通り進めることができた。但し、ごみ箱周辺の花植えについては、道路を使用しないこと、ごみ収集活動に支障ないこと等さらに検討進めたい。

コンポストは、当初、来年度と2回に分けて進める予定であったが、資材購入に際し当初計画に無いトラック運送費がその都度かかること及び、公園内落葉の量が予想より多いため、業者を使わず町内の経験者の指導の下、独力で本年度に完成させた。

そのため、会員の作業が膨大となったが、落葉回収については、町会周辺住民も参加頂き、結果的には市民活動の輪が広がってきた。

⑤第2回四世代交流フェアについては、今回2回目ということも有り比較的スムーズに開催できた。地元のフラダンスがフェアに華を添え、参加者も前回62名に対し、今回87名と増加した。

4 事業成果について（事業計画書の事業の目標に書かれた項目毎に分けて記載）

・目標の達成と課題の解決について

項目	活動計画	実践内容	課題解決案	成果
1. ①グリスロ 活性化	イベント活用	・試乗したが、地理的に有効活用が難しいこと判明	テーマから削除	‘——
②高齢者 支援	市民講座開催	3回実施 ・テキストも準備し内容は充実していたが、PR不足で参加者が限定的	高齢者以外にも展開	参加者延 35/20
③落葉 堆肥化・ 花き栽培	花壇設置 コンポスト製作	市から2ヶ所認定頂き、花植え開始 完成 2x4x0.9mH	拡大計画 堆肥の作成	100% 100%

		・ 今期独力で施工完成		参加者延 175
④町会館 活用	ふれあいサロン	3 回実施 交流の場提供	②と統合 ; PR 不足 のため、回覧チラ シ配布	参加者延 35/60
⑤四世代 交流会	開催	音楽とフラダンス ・参加者増員したが子供少 ない	公園で BBQ フェア	参加者 87/80
2. SDGs 活動会	4 回実施	4 回実施 10 回公園内作業 ・ 作業協力者増加	企画立案 定期的作業	参加者延 50/80 参加者延 115

5 今後の事業展開

1) 活動を 3 テーマに絞って、より実践化に集中し、とりあえずの活動の締めくくりとする ; ①落葉堆肥化・花き栽培 ; ・ できた堆肥で公園、周辺地域の花を増やして地域を明るくする。 ・ 公園内の花壇地域を増やして、公園をより明るく華やかにし、市民の憩いの場とする。 ②町民講座とふれあいサロン ; ・ 町民講座は、若年層、小学生向け題材も検討する。 ・ ④の会館活用の一環として、町民講座の後にふれあいサロンを実施して、お茶を飲みながら参加者同士の情報共有を行った。今後、定例化し、高齢者以外も含め広く開放する。 ③四世代交流会 ; ・ 従来通り体育館でやるか公園を開放して BBQ も取り入れた野外音楽祭を検討する。 2) SDGs 活動会は、立案計画の打合せだけでなく、腐葉土化の工夫・ノウハウの勉強を取り入れ、コンポストの実践に活用していく。

収支決算書

【収 入】

(単位: 円)

区分	科 目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 55,764	¥ 105,085	¥ ▲49,321	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (A)	¥ 55,764	¥ 105,085	¥ ▲49,321	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 249,876	¥ 249,876	¥ 0	←精算額
合計額 (C) = (A + B)		¥ 305,640	¥ 354,961	¥ ▲49,321	

【支 出】

区分	科 目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 100,000	¥ 100,000	¥ 0	外部講師謝礼①②⑨⑩ 25,000円 × 4回
	印刷製本費	¥ 10,000	¥ 26,200	¥ ▲16,200	8/12わくわく会活動PR (ラクスル) ⑧ 600部 3,220
					10/21四世代交流会式次第(ラクスル) ⑩ 200部 2,585
					10/30四世代交流会申込チラシ(トーエイ) ⑮ 500部 3,675
	消耗品費	¥ 6,400	¥ 1,550	¥ 4,850	1/19市民講座チラシ作成 (五十嵐) ⑬ 200部 5,500
					10/13エンディングノート資料 (竹内) ⑳ 10部 3,520
		¥ 4,840	¥ 330	¥ 4,510	12/22後見制度資料 (竹内) ㉑ 40部 4,180
					2/2認知症 (竹内) ㉒ 10部 3,520
		¥ 104,500	¥ 138,567	¥ ▲34,067	10/22インクカートリッジ(アマゾン) ⑱ 1,550
					6/1ファイルホルダー(ダイソー) ③ 330
					コンポスト製作 サイズ: 3740x1930x920H 万円堀並板 2950x24= 70,800 角柱 7500x4= 30,000 直柱 6800x2= 13,600 小計 114,400 消費税 11,440 11/25 (建デポ) 合計⑩ 125,840 (145,420の内19,580は、運搬費に計上)
		¥ 7,200	¥ 7,813	¥ ▲613	12/6ブルーシート、ロープ他(コーナン) ⑪ 12,507
					12/6タコ糸、釘 220円 (ダイソー) ⑫ 220
		¥ 15,000	¥ 19,205	¥ ▲4,205	ガーデン用具 7/17じょうろ用具(ジョイフル本田) ④ 1,711
					7/17堆肥(ジョイフル本田) ⑥ 2,824
		¥ 5,600	¥ 0	¥ 5,600	12/9ノズル付ホースセット(コーナン) ⑭ 3,278
					7/17花ルピナス(ジョイフル本田) ⑤ 107
		¥ 8,800	¥ 0	¥ 8,800	7/17花ピンカ、ルドベキア(ジョイフル本田) ⑦ 19,098
		¥ 12,000	¥ 0	¥ 12,000	プランター
		¥ 3,300	¥ 0	¥ 3,300	サポート支柱(コンポスト費用に含む)
		¥ 0	¥ 770	¥ ▲770	花壇柵用円弧ボール (竹廃材で作製中)
	通信運搬費	¥ 0	¥ 19,580	¥ ▲19,580	シール、金封(Loft) (講師謝礼用) ⑰ 770
	対象経費の合計(D)	¥ 277,640	¥ 314,015	¥ ▲36,375	コンポスト用資材(建デポ) 輸送料 ⑩ 17,800
					消費税 1,780
(その他経費)	食糧費	¥ 28,000	¥ 40,946	¥ ▲12,946	5/24わくわく会お茶 (リブレ) 2,436
					8/15わくわく会お茶 (リブレ) 2,540
	その他経費の合計額(E)	¥ 28,000	¥ 40,946	¥ ▲12,946	9/14おにぎり(セブンイレブン) 4,340
合計額(F) = (D + E)		¥ 305,640	¥ 354,961	¥ ▲49,321	10/2ふれあいサロン菓子(リブレ) 6,203

【チェック項目】

- 1 助成金(B)が、対象となる経費(D)欄の90%以内であること。
- 2 自己資金(A)欄が、「対象経費(D)欄の10%以上」であること。
- 3 助成金(B)が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。
- 4 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。

精算額	¥ 0
-----	-----

別紙 1

収支内訳書

【収 入】

区分	科 目	金 額	内訳・説明事項
団 体	団体拠出金	¥ 105,085	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額	¥ 105,085	
市	市民活動助成金	¥ 249,876	
合 計 額		¥ 354,961	

【支 出】

	科 目	金 額	内訳・説明事項（用途など）
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 100,000	講師謝礼 講師名 佐藤秀樹氏 25,000円 × 4回
	印刷製本費	¥ 26,200	わくわく会活動PR（ラクスル）600部 3,220 四世代交流会式次第（ラクスル）200部 2,585 四世代交流会申込チラシ（トーエイ）500部 3,675 市民講座チラシ作成（五十嵐）200部 5,500 資料：エンディングノート、後見制度、認知症 11,220
	消耗品費	¥ 168,235	コンポスト製作（建デポ）他 138,567 ガーデン用具 7,813、花苗 19,206、他 2,649
	通信運搬費	¥ 19,580	コンポスト用資材（建デポ）輸送料 17,800 及び消費税
	対象経費の合計	¥ 314,015	
その他経費	食糧費	¥ 40,946	お茶代 10,056、弁当 19,607 他
	その他経費の合計	¥ 40,946	
合 計 額		¥ 354,961	

みんなで育て みんなでつくる
沿道の食べられる景観事業

エディブルウェイプロジェクトチーム

みどりと花の課

活動状況報告書

1 事業名称 みんなで育て みんなでつくる 沿道の食べられる景観事業

2 実施主体

■団体名： エディブルウェイプロジェクトチーム

従事者数： 15名

団体概要： 沿道の住宅や店舗前、地域の拠点等で、野菜やハーブなどを育てる「食べられる景観」づくりや、植物クラフト活動を実施する。生活に身近な場所での園芸活動を通じ、住民の交流を促進し、地域コミュニティ向上、地域環境を学び合う場を創出する。

■事業担当課：みどりと花の課

3 事業を実施する上での役割分担

■団体の役割

プロジェクト地域での事業企画・運営・実施

■担当課の役割

地域との連携サポート

4 事業の実施内容（事業計画の事業内容に書かれた事業毎に分けて記載）

(1) 事業内容

①-1 食べられる景観づくり（通年）（まちのプランター）

日 付	作 業 内 容
4/17	講師との打ち合わせ（松戸）
4/17	地域包括支援センターと打合せ（地域包括支援センター）
4/20-6/8	育苗活動（5名）
4/18	チラシ作成
4/20	参加者へ案内（掲示板、メール）
4/20	松戸三丁目東自治会に説明（松戸三丁目東自治会館）
5/11	まちのプランター作戦会議（千葉大学、参加者16名）
5/11	寄せ植え講座（千葉大学、参加者12名）（スタッフ3名）
5/17	チラシ作成、参加者へ案内（掲示板、メール）
6/2～6	まちのプランター植え付け準備、サイン類作成、レイアウト図作成

6/8	まちのプランター植え付け（自治会館、参加者 42 名）
6/8	スタッフ打ち合わせ（松戸）
6/8	プランター名札、水管理表設置
6/9	クラフトサイン作成・修理、プランター名札設置
6/14	チラシ作成、参加者へ案内（掲示板、メール）
6/19	地域包括支援センター前プランター植付け（参加者 9 名）
7/12	「ハーブの虫除けづくりワークショップ」準備
7/13	まちのプランター手入れ、水やり（自治会館、参加者 26 名） 「ハーブの虫除けづくりワークショップ」（自治会館、参加者 18 名、 うち子ども 4 名、スタッフ 3 名）
7/13	スタッフ打ち合わせ（松戸）
7/23	チラシ作成、参加者へ案内（掲示板、メール）
7/27	視察対応、活動説明（松戸市民会館）
8/9	ハーブウォーター準備
8/10	まちのプランター手入れ、水やり（自治会館、参加者 9 名） ハーブウォーター飲み比べ
8/10	スタッフ打ち合わせ（松戸）
8/27、29	視察対応
9/4、18	プランターレイアウト図作成
9/19	資材（苗など）買い出し
9/20	「収穫祭（大葉ペースト）」試作、準備
9/21	まちのプランター手入れ、収穫、植え替え、水やり（自治会館、参加 者 23 名）大葉ペースト試食会（自治会館、参加者 20 名）
9/21	スタッフ打ち合わせ（松戸）
9/21-10/19	育苗活動（5 名）
10/8	講師との打ち合わせ（オンライン）
10/10	チラシ作成、参加者へ案内（掲示板、メール）
10/14	プランターレイアウト図作成
10/15	まちのプランター植え替え下準備
10/15	資材（苗など）買い出し
10/19	まちのプランター手入れ、植え替え、水やり（自治会館、参加者 19 名）、寄せ植え講座（自治会館、参加者 8 名）（スタッフ 3 名）
10/19	スタッフ打ち合わせ（松戸）
11/2	資材（苗など）買い出し

11/4 *11/2 が雨のため、 雨天順延開催	まちのプランター手入れ、植え替え、水やり（自治会館、参加者 8 名）
11/17	チラシ作成、参加者へ案内（掲示板、メール）
11/19	地域包括支援センター前プランター植え替え
12/10	「小枝と毛糸でミニツリーをつくろうワークショップ」準備
12/14	まちのプランター手入れ、水やり（自治会館、参加者 9 名）
12/14	視察対応
12/18	スタッフ打ち合わせ（オンライン）
12/18	チラシ作成、参加者へ案内（掲示板、メール）
1/11	まちのプランター手入れ、水やり（自治会館、参加者 17 名） ハーブ芳香浴 & ハーブティー
1/20	チラシ作成
1/25	参加者へ案内（掲示板、メール）
2/6	スタッフ打ち合わせ（オンライン）
2/8	まちのプランター手入れ、水やり（自治会館、参加者 18 名） ハーブ手浴 & 麦の絵本の読み聞かせ会
2/8	スタッフ打ち合わせ（松戸）
2/10	チラシ作成
2/11	参加者へ案内（掲示板、メール）
2/12	スタッフ打ち合わせ（オンライン）
3/1	まちのプランター手入れ、水やり ジャガイモ・カレンデュラ植え付け、手浴、ハーブティー （自治会館、参加者 14 名）
3/15-3/31	育苗活動（5 名）

①-2 食べられる景観づくり（4-5 月・9-10 月）（沿道の個人宅、事業所前）

日 付	作 業 内 容
4/20	チラシ作成
4/20	参加者への植え替え案内（メール、手紙）
4/20	苗配布交換会まで、各自自宅で育苗活動
5/11	植え替え講座、苗・タネ配布交換会 （千葉大学、講座参加者 12 名、交換会参加者 15 名）
10/10	チラシ作成
10/10	参加者への植え替え案内（メール、手紙）

10/19	植え替え講座、苗・タネ配布交換会 (自治会館、講座参加者 8 名、交換会参加者 8 名)
-------	---

② 子ども向けクラフトワークショップ開催（12・3月）

日 付	作 業 内 容
4/20-28	緑と花のフェスティバル準備
4/29	緑と花のフェスティバル クラフトワークショップ（参加者 30 名）（地域外参加者 30 名）（スタッフ 4 名）
11/13	チラシ作成
11/15	申込案内（メール、LINE オープンチャット、配布、掲示板）
12/10	ワークショップ準備
12/14	クラフトワークショップ開催「小枝と毛糸でクリスマスかざりをつくろう」（自治会館、参加者 3 名、スタッフ 2 名）
1/22	講師と打ち合わせ（新松戸）
2/5	チラシ作成
2/10	申込案内（メール、LINE オープンチャット、配布、掲示板）
3/1	クラフトワークショップ開催 「椿の庭で草花あそび・草花あそび絵本読み聞かせ」 (椿の庭、参加者 15 名、スタッフ 4 名)（地域外参加者 8 名）

③ ハーブクラフト講座開催（1月）

日 付	作 業 内 容
11/20	講師と打ち合わせ（オンライン）
11/26	チラシ作成
12/10	申込案内（メール、LINE オープンチャット、ポスティング、掲示板）
1/11	ハーブクラフト講座「冬のハーバルバスソルトづくり」（松戸市民会館、参加者 15 名、スタッフ 4 名）（地域外参加者 8 名）

④情報発信

- **チラシでの発信：**①～③の活動については、各回チラシを作成し、町会掲示板への掲示、参加者へのポスティング、LINE オープンチャットでの配信。
- **SNS（LINE オープンチャット）での発信：**プロジェクト参加者が参加できる LINE オープンチャットの開設。毎月の活動の告知、栽培状況など情報共有を発信。
- **SNS（Instagram、facebook）での発信：**活動告知、報告の発信。
- 松戸市みどりと花の課が発行する「みどりのメッセージブック」でエディブルウェイ

プロジェクトの紹介記事掲載。(担当課及び、団体が記事作成)

- 松戸市 YouTube で活動のショート動画の発信 (担当課作成)

(2) 事業内容のふりかえり

①-1 食べられる景観づくり (通年) (まちのプランター)

みどりと花の課が管理する地域沿道に設置されている 11 箇所のプランターを「まちのプランター」とし、食べられる景観づくりを実施しました。既存の参加者に加え、町会、子ども会、地域包括支援センターなど様々な主体と協力し、幅広い年齢層による地域のみどりのつながりを広げることができました。

普段は通勤やお散歩の時に各自で水やりをして、月に一度の活動日には集まって管理をしています。プランターのお手入れをした後、ミニワークショップを開催するなど、参加者の交流を深めると共に、知識向上にも役立てることができました。寄せ植えをすることで、プランターの土を入れ替えずに育てるリレー栽培を実践し、11 箇所のプランター全て異なる組み合わせの植物を植え、通りからプランターの彩りを見る楽しさが増して、良い効果となりました。近隣の方、通りすがりの方、近くの保育所など、さまざまな方々と植物を通しての交流が生まれました。

まちのプランター活動が当初想定していた植え替え活動だけではなく、毎月の管理活動に、増えたため、講師をまねくワークショップを 4 回計画していたが、2 回とし、各回のまちのプランター活動に、ボランティアで管理に参加してくださる方向けのミニワークショップを開催することにしました。

①-2 食べられる景観づくり (4-5 月・9-10 月) (沿道の個人宅、事業所前)

昨年に引き続き、専門家を講師に招き、リレー栽培と植え替えのコツを教えてくださいました。また有志の「苗部」により、植え替え用の苗の栽培を行いました。苗部で育てた苗は、まちのプランターに植えたり、苗配布交換会にて希望者に配布、交換しました。タネ・苗配布交換会では、自宅で余っている苗やタネを持ってきたり参加形態とすることで、植物の交換や、育て方などを教えあう、新しい交流のきっかけとなりました。

② 子ども向けクラフトワークショップ開催 (12・3 月)

4 月に開催された緑と花のフェスティバルに出展し、プロジェクトの紹介をするとともに、クラフトワークショップを開催し、活動を PR しました。

12 月の「小枝と毛糸でクリスマスかざりをつくろう」は、まちのプランター活動に参加された大人の方にも参加いただき、それぞれオリジナルのクリスマスかざりを作ることができました。

3 月のワークショップは、昨年に引き続きコミュニティスペース椿の庭との共催での開催となりました。

③ ハーブクラフト講座開催（1月）

1月の「冬のハーバルバスソルトづくり」では、ハーブを生活の中で気軽に使うコツを学ぶことができ、ハーブの使い方をよく知ること、育てるモチベーションの向上にもなっているようです。また学んだことを活かし、まちのプランターで育てたハーブを使った活動につなげることができました。ハーブ講座から、エディブルウェイの活動に関心を持ってくださる方、リピーターの方など、大変好評に終えることができました。

④ 情報発信（通年）

イベントのチラシを作成し、市内施設、地域の店舗、参加者へポスティング配布しました。Instagram、Facebook、LINE オープンチャット、メールで定期的に情報配信を行いました。

新聞、冊子などで活動を取りあげていただいたことで、地域のみなさんから喜んでいただけたほか、活動に興味を持っていただく機会を得て視察の依頼も増えました。各地で、生活環境において一人一人が参加できる景観づくり、多世代にわたる地域交流のきっかけ、コミュニティづくりなどみどりのまちづくりの活動の参考となればと思います。

計画していた絵本の読み聞かせ2回は、活動やワークショップに関連する絵本を選び、まちのプランター活動（2/8）と、ワークショップ（3/1）で行いました。

【メディア掲載】

・2024/9/17 街の「緑」と共生する暮らし エディブルランドスケープで街とつながろう！、朝日新聞

・2024/9/26 食べられる道がつくる景観、日本経済新聞

【視察対応】

・2024/7/27 園芸療法の実践グループ

・2024/8/27、29 関西大学都市設計研究室（松戸の現地視察、西千葉の研究室でインタビュー対応2回）

・2024/12/14 高知県越知町地域おこし協力隊

5 事業成果について（事業計画の事業の目標に書かれた項目毎に分けて記載）

・目標の達成と課題の解決について

目標① 食べられる景観づくりについては、沿道の新規参加者（5世帯）、地域の拠点施設への展開（1カ所以上）を目指す。

◇ 新規参加者 1世帯、地域拠点2カ所（地域包括支援センター、歩道プランター）。まちのプランター活動の比重が大きくなり、参加を呼びかけたものの、沿道の新規参加者は、1世帯のみでした。しかし、まちのプランター活動は、活動日に最大で、42名が参加する活動となり、これまで、参加していなかった方や世代にもアプローチできました。また、まちのプランター活動が始まったことで、より多くの方に景観を楽しんでいただき、参加の機会

につながっています。作業をしていると沿道の方からもお礼を言われたり、「ゴミが少なくなりました」「成長が楽しみ」とうれしいお声かけもいただいています。

目標② タネ取り、育苗活動を実施し、植え替え時期に、タネ・苗は交換会として開催できることを目標とする。(年2回開催)

☞ 育苗活動は、3回に分けて実施した。植え替え時期に、タネ・苗を持ち寄り、交換会として2回開催した。植物を介した交流の機会にもなった。

目標③ 植物を用いたイベントの開催を行い、学びや交流の場づくりを通して、活動を継続するための知識を共有する。(年4回開催)

☞ まちのプランター活動にかかる時間が想定より大幅に増えたため、講師を招くワークショップは、4回予定していたが、2回に減らした。

これまでに、得てきた知識や、書籍を参考にして、まちのプランターの管理活動にボランティアで参加してくださる方向けに、管理活動の後に、ミニワークショップを開催して、栽培や管理活動へのモチベーションとなる機会を設けた。収穫物や、剪定作業をしたハーブを使って、ワークショップや試食をし、多世代交流の機会にもなり、栽培や管理活動を楽しみ、学びの場となった。

目標④ 各イベントには、市内の他地域からも参加いただくこと。(20名定員で半数は、プロジェクト地域から、半数は、他地域程度を目標とする。)

☞ 講座やワークショップには、市内の他地域からも参加していただき、活動をPRすることができた。特に、緑と花のフェスや、講師を招いたワークショップの際は、半数以上が他地域の方で、活動の情報発信をすることができた。

6 今後の事業展開

・協働事業が始まったことで、地域包括支援センターとも協力し、地域沿道に設置されているプランターでも、食べられる景観づくりを実施することができました。これまでの参加者に加え、町会、子ども会、地域包括支援センターなど様々な主体と協力し、活動を展開できました。多世代交流の機会になりました。

・300mの沿道ですが、水やり用のペットボトルを持って歩くことはいい運動になります。子どもたちは園芸体験、年配の方は外出の機会など様々なきっかけづくりにも役立っています。

・今後は、地域内の保育所や学童などの拠点にも展開できたらと考えており、連携サポートに期待しています。

・市内の他地域の方からも、興味を持っていただいております、他地域の展開を支援することができるように、検討していくほか、プロジェクトのマニュアル化も検討していきます。

収支決算書

【労力換算（限度額算入）】

（単位：円）

区分	科 目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 382,776	¥ 626,886	¥ ▲244,110	※別紙 労力換算計算書 参照

【収 入】

区分	科 目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	イベント(WS・講座)参加費	¥ 115,000	¥ 65,700	¥ 49,300	(1)5/11講座500円*12人、10/19講座500円*8人、7/13WS 300円*14人、9/21試食会 100円*20人、(2)4/29クラフトWS 500円*30人、12/14WS 500円*3人、3/1WS 1000円*15人、(3)ハーブクラフトWS 1200円*15人
	団体拠出金	¥ 0	¥ 24,540	¥ ▲24,540	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (B)	¥ 115,000	¥ 90,240	¥ 24,760	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 447,600	¥ 404,647	¥ 42,953	←精算額
合計額 (D) = (B + C)		¥ 562,600	¥ 494,887	¥ 67,713	

【支 出】

区分	科 目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 180,000	¥ 120,000	¥ 60,000	講座外部講師謝礼金 (30,000円*4回)
	消耗品費	¥ 271,000	¥ 299,620	¥ ▲28,620	[食べられる景観づくり]植え替え (種まき用土5L¥599*2、サラダミックスタネ¥189*2)、(枝豆苗16株 ¥548、バジル苗¥128*6、つるなしいんげんタネ¥98、春菊タネ¥98、オクラタネ¥278他) 他
	使用料及び賃借料	¥ 12,800	¥ 14,940	¥ ▲2,140	(自治会館 1階) 6/8 ¥1600、8/10 ¥1600、(自治会館 2階) 7/13 ¥800、9/21¥800、10/19 ¥1200、11/4 ¥400、12/14 ¥800、1/11 ¥800、2/8 ¥800、3/1 ¥800 他
	食糧費	¥ 15,000	¥ 9,883	¥ 5,117	お茶代：まちのプランター6月¥740、7月¥503、11月¥475、12月¥467、1月¥1364、2-3月¥2181 他
	通信運搬費	¥ 3,360	¥ 1,750	¥ 1,610	講師に資材等返却のための宅配便 (¥1,750)
	印刷製本費	¥ 14,200	¥ 2,415	¥ 11,785	12月・3月WSチラシ (A4カラー・50部) ¥720、1月チラシ (A4カラー・100部) ¥750 他
	保険料	¥ 2,240	¥ 1,000	¥ 1,240	3/1 草花あそび (工作) レクリエーション保険
				¥ 0	
	対象経費の合計 (E)	¥ 498,600	¥ 449,608	¥ 48,992	
（その他の経費）	食糧費	¥ 20,000	¥ 11,000	¥ 9,000	講座、WS時 終日スタッフ用 1食500円 (6回分)
	交通費	¥ 38,000	¥ 27,695	¥ 10,305	運搬用レンタカー代、講師・スタッフ交通費
	通信費	¥ 6,000	¥ 6,584	¥ ▲584	HPサーバー¥3960、ドメイン¥2194など
	その他経費の合計額 (F)	¥ 64,000	¥ 45,279	¥ 18,721	
合計額 (G) = (E + F)		¥ 562,600	¥ 494,887	¥ 67,713	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。
- 4 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。

精算額	¥ 42,953
------------	----------

収支内訳書

【収 入】

区分	科 目	金 額	内訳・説明事項
団 体	イベント(WS・講座)参加費	¥ 65,700	(1)5/11講座500円*12人、10/19講座500円*8人、7/13WS 300円*14人、9/21試食会 100円*20人、(2)4/29クラブWS 500円*30人、12/14WS 500円*3人、3/1WS 1000円*15人、(3)ハーブクラブWS 1200円*15人
	団体拠出金	¥ 24,540	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額	¥ 90,240	
市	松戸市負担金	¥ 404,647	
合 計 額		¥ 494,887	

【支 出】

	科 目	金 額	内訳・説明事項（用途など）
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 120,000	講座外部講師謝礼金（30,000円*4回）
	消耗品費	¥ 299,620	[食べられる景観づくり] 植え替え（種まき用土5L¥599*2、サラダミックスタネ¥189*2）、（枝豆苗16株 ¥548、バジル苗¥128*6、つるなしいんげんタネ¥98、春菊タネ¥98、オクラタネ¥278他）、（培養土¥728、白ゴーヤタネ¥459、トマト苗¥299*5 他）他 [クラブWS] WS用品（コードレスグルーガン ¥3040、¥3400）他 [活動全般]・書籍（植物を育てる楽しみとコツがわかる「園芸」の基本 ¥3190 他）、絵本（麦わらの本 ¥2750 他）他
	使用料及び賃借料	¥ 14,940	（自治会館 1階）6/8 ¥1600、8/10 ¥1600、（自治会館 2階）7/13 ¥800、9/21¥800、10/19 ¥1200、11/4 ¥400、 12/14 ¥800、1/11 ¥800、2/8 ¥800、3/1 ¥800、 （松戸市民会館）7/27 ¥440、マイク・プロジェクター ¥540、9/4 ¥640、1/11 ¥1520 （椿の庭）3/1 ¥2000
	食糧費	¥ 9,883	お茶代 まちのプランター6月¥740、7月¥503、11月¥475、12月¥467、1月¥1364、2-3月¥2181 WS 1月¥959、WS 3月¥1250 お菓子代 WS 3月¥1944
	通信運搬費	¥ 1,750	講師に資料等返却のための宅配便（¥1,750）
	印刷製本費	¥ 2,415	12月・3月WSチラシ（A4カラー・50部）¥720、1月チラシ（A4カラー・100部）¥750、コピー代他
	保険料	¥ 1,000	3/1 草花あそび（工作）レクリエーション保険
	対象経費の合計	¥ 449,608	
その他経費	お弁当代	¥ 11,000	講座、WS時の終日スタッフ4/29 500円*5名、5/11 500円*3名、6/8 500円*5名、12/10 500円*2名、1/11 500円*3名、3/1 500円*4名
	交通費	¥ 27,695	レンタカー代 5/12（¥4611）、10/15（¥2530）、11/2（¥3870）、講師（片道¥1530*2=¥3060、片道¥410*2=¥820）、スタッフ（片道¥471*2*12回）、ワークショップ資材運搬タクシー代3/1（¥1500）
	通信費	¥ 6,584	HPサーバー¥3960、ドメイン¥2194、市民自治課への報告書類送付（¥430）
	その他経費の合計	¥ 45,279	
合 計 額		¥ 494,887	

労力換算計算書

(単位：円)

項 目		換算額	積算内訳
労 力 換 算 額	活動計画		人数×時間回数×1026円
	まちのプランター植え付け準備	24,624 円	3 人 × 8 h × 1 回 × 1026 円
	まちのプランター植え付け	10,260 円	5 人 × 2 h × 1 回 × 1026 円
	まちのプランター名札類取り付け	15,390 円	5 人 × 3 h × 1 回 × 1026 円
	まちのプランター活動日(9回)	55,404 円	3 人 × 2 h × 9 回 × 1026 円
	まちのプランター活動準備(9回)	83,106 円	3 人 × 3 h × 9 回 × 1026 円
	育苗活動(3回)	76,950 円	5 人 × 5 h × 3 回 × 1026 円
	タネ・苗交換会準備(2回)	12,312 円	3 人 × 2 h × 2 回 × 1026 円
	タネ・苗交換会開催(2回)	6,156 円	3 人 × 1 h × 2 回 × 1026 円
	WS・講座準備(4回)	61,560 円	3 人 × 5 h × 4 回 × 1026 円
	講座開催(2回)	24,624 円	3 人 × 4 h × 2 回 × 1026 円
	WS開催(2回)	41,040 円	5 人 × 4 h × 2 回 × 1026 円
	WS・講座 講師打ち合わせ(4回)	24,624 円	3 人 × 2 h × 4 回 × 1026 円
	スタッフ打ち合わせ(9回)	55,404 円	3 人 × 2 h × 9 回 × 1026 円
	クラフトサイン作成・修理(1回)	10,260 円	2 人 × 5 h × 1 回 × 1026 円
	緑と花のフェスティバル準備	15,390 円	3 人 × 5 h × 1 回 × 1026 円
	緑と花のフェスティバルワーク ショップ	25,650 円	5 人 × 5 h × 1 回 × 1026 円
	チラシ作成(14回)	43,092 円	1 人 × 3 h × 14 回 × 1026 円
	チラシ配布、掲示、ポスティングな ど発信作業(14回)	43,092 円	1 人 × 3 h × 14 回 × 1026 円
	絵本読み聞かせ準備(2回)	10,260 円	1 人 × 5 h × 2 回 × 1026 円
	地域拠点打ち合わせ(1回)	6,156 円	3 人 × 2 h × 1 回 × 1026 円
	地域拠点植え付け活動(2回)	8,208 円	2 人 × 2 h × 2 回 × 1026 円
	視察対応(4回)	8,208 円	1 人 × 2 h × 4 回 × 1026 円
			人 × h × 回 × 1026
合 計 (A)		626,886 円	

まつど de SDG s の輪を広げようプロジェクト事業

まつど地域活躍塾つながりの会

政策推進課 SDGs 推進担当室

活動状況報告書

1 事業名称 まつど de SDGs の輪を広げようプロジェクト事業

2 実施主体

■団体名： まつど地域活躍塾つながりの会

従事者数： 44 名

団体概要： 2017 年に松戸市で開催された「まつど地域活躍塾」の修了生有志によって 2019 年に立ち上げられた団体は、活躍塾の目標を実現するために、修了生が地域での活動や貢献を支援し、地域の活性化に貢献することを目的としています。2019 年 4 月からは SDGs 推進メンバーが中心となり、松戸市民に SDGs への関心を深め、個々の行動につながる啓発活動も展開しています。

■事業担当課： 松戸市 総合政策部 政策推進課 SDGs 推進担当室

3 事業を実施する上での役割分担

■団体の役割

各事業の主催：企画立案、広報、応募者・参加者等との連絡・調整・取り纏め

■担当課の役割

各事業の側面支援：主催事業への助言・期日管理、広報支援（市 HP、広報誌掲載）

4 事業の実施内容（事業計画の事業内容に書かれた事業毎に分けて記載）

(1) 事業内容

① 市内の事例集の内容を共有する発表会・意見交換の開催【開催 2 回】

日 付	作 業 内 容
2024 年 5 月 10 日	市×団体打合せ（年度スケジュールと役割分担の共有）
6 月 14 日	市×団体打合せ（第 1 回目の発表会の内容、スケジュールの検討、事例集のとりまとめ状況の確認）
7 月 26 日	市×団体打合せ（第 1 回目の発表団体、発表内容、スケジュールの検討）
8 月 23 日	市×団体打合せ（第 2 回目の発表会の内容、スケジュールの検討）
9 月 27 日	市×団体打合せ（第 2 回目の発表団体、発表内容、スケジュールの検討）
10 月 18 日	市×団体打合せ（第 1 回目の発表団体、会場、スケジュールの決定）
～	チラシ(1000 枚)の作成・印刷・市の施設 40 か所に配架、SDGs ネットワーク団体、つながりの会会員等への呼びかけ・WEB での広報、発表者との連絡調整

11 月 13 日	市×団体打合せ（第 1 回目の発表会の準備品・段取り確認、事例集のとりまとめ状況の確認）
11 月 29 日	★第 1 回 松戸市 SDGs の取り組み事例発表会 開催 ※SDGs ネットワーク団体との会合を同時開催(第 1 回目) ・ 14 時 30 分～16 時 松戸市六実市民センター第 2 和室 ・ 内容 : ①「住み続けられる街づくりを目指した町会活動を」 六高台 2 丁目町会 ②「循環する暮らしと地域 SDGs」 循環する暮らしを愉しむ会 ・ 参加者： 8 名
12 月 23 日	市×団体打合せ（第 1 回目の発表会の振り返り）
2025 年 1 月 24 日	市×団体打合せ（第 2 回目の発表団体、会場、スケジュールの決定）
～	チラシ(1000 枚)の作成・印刷・市の施設 40 か所に配架、SDGs ネットワーク団体、つながりの会会員等への呼びかけ・WEB での広報、発表者との連絡調整
2 月 21 日	市×団体打合せ（第 1 回目の発表会の準備品・段取り確認、事例集のとりまとめ状況の確認）
2 月 26 日	★第 2 回 松戸市 SDGs の取り組み事例発表会 開催 ※SDGs ネットワーク団体との会合を同時開催(第 2 回目) ・ 16 時～17 時 30 分 松戸市勤労会館 2 階 会議室 B ・ 内容 : ①「複数の SDGs 目標にアプローチする地域での取り組み」 一般社団法人銀座環境会議 ②「ゴール 17 パートナリーシップが大切」 まつどゼロウェイスト ・ 参加者： 10 名
3 月 21 日	市×団体打合せ（第 2 回目の発表会の振り返り、事例集のとりまとめ状況の確認）
3 月 28 日	★事例集完成（WEB 公開） 12 団体・企業からの事例を掲載

② 地域学習会【開催 4 回】

日 付	作 業 内 容
2024 年 5 月 10 日	市×団体打合せ（年度スケジュールと役割分担の共有）

6 月 14 日	市×団体打合せ（第 1・2 回目の学習会の内容、スケジュールの検討）
～	第 2 回開催準備（松戸市消費生活展のパネル作成等）
7 月 26 日	市×団体打合せ（第 1 回目の発表団体、会場、スケジュールの決定）
8 月 18 日	★第 1 回 SDGs 地域学習会 開催 ・ 14 時～15 時 小金原 3 丁目会館 ・ SDGs ネットワーク団体にはいつている「小金原わくわくする会(市民団体)」の会員を対象とした学習会 ・ 内容：松戸市「SDGs 未来都市」「自治体 SDGs モデル事業」 ・ 参加者：15 名
8 月 23 日	市×団体打合せ（第 1 回目の学習会の振り返り、第 2 回開催内容、準備進捗の確認）
9 月 27 日	市×団体打合せ（第 2 回目の学習会の準備品・段取り確認）
～	第 2 回開催準備（松戸市消費生活展への出展準備）
10 月 2 日～9 日 （土日を除く）	★第 2 回 SDGs 地域学習会 開催（松戸市消費生活展） ・ 松戸市役所 1 階本館新館連絡通路 ・ 内容：「デコ活を進めエシカルを実践」「アップサイクルで楽しくエシカル」をテーマとしたパネル展示を作成して SDGs の普及啓発活動を実施 ・ つながりの会へのパネル展示来場者：計 50 名
10 月 18 日	市×団体打合せ（第 2 回目の学習会の振り返り、第 3 回開催内容の検討）
11 月 13 日	市×団体打合せ（第 3 回目の発表団体、会場、スケジュールの決定）
～	チラシ(1000 枚)の作成・印刷・市の施設 40 か所に配架、SDGs ネットワーク団体、つながりの会会員等への呼びかけ・WEB での広報、発表者との連絡調整
12 月 4 日	★第 3 回 SDGs 地域学習会 開催 ・ 13 時 30 分～15 時 30 分 松戸市六実市民センター第 1 会議室 ・ 内容： ①「身近なところから始める SDGs」 ベストビルサービス株式会社 ②「SDGs 持続可能な未来をプラントベースを通して」 ekus 株式会社 ・ 参加者：9 名
12 月 23 日	市×団体打合せ（第 3 回目の学習会の振り返り、第 4 回開催内容の検討）
2025 年	市×団体打合せ（第 4 回目の発表団体、会場、スケジュールの決定）

1 月 24 日	
～	チラシ(1000 枚)の作成・印刷・市の施設 40 か所に配架、SDGs ネットワーク団体、つながりの会会員等への呼びかけ・WEB での広報、発表者との連絡調整
2 月 21 日	市×団体打合せ（第 4 回目の発表会の準備品・段取り確認）
2 月 24 日	★第 4 回 SDGs 地域学習会 開催 ・13 時 30 分～15 時 30 分 松戸市男女共同参画センターゆうまつど 研修室 ・内容： ①「(株)新井商店が進める SDGs への取り組み」 リソースガイア 株式会社（新井商店グループ） ②「身近なところから 身近な人たちと未来を見つめ SDGs アクション」 有限会社 アーネストホーム ・参加者：18 名
3 月 21 日	市×団体打合せ（第 4 回目の学習会の振り返り）

③ フォーラム【開催 1 回】

日 付	作 業 内 容
2024 年 5 月 10 日	市×団体打合せ（年度スケジュールと役割分担の共有）
9 月 27 日	市×団体打合せ（フォーラム内容の検討）
10 月 18 日	市×団体打合せ（フォーラム内容の検討）
11 月 13 日	市×団体打合せ（会場、スケジュールの検討）
12 月 23 日	市×団体打合せ（フォーラム内容の決定）
2025 年 1 月 24 日	市×団体打合せ（会場、スケジュールの決定）
～	会場確保、開催日の決定（3 月 24 日）
2 月 21 日	市×団体打合せ（チラシ・応募フォーム確認、当日進行の確認）
～	チラシ(1200 枚)の作成・印刷・市の施設 40 か所に配架、SDGs ネットワーク団体、つながりの会会員等への呼びかけ・WEB での広報、広報まつどへの掲載(3 月 1 日)、フォーラム参加者との連絡調整
3 月 21 日	市×団体打合せ（フォーラムの準備品・段取り確認）
3 月 24 日	★SDGs フォーラム 開催 ・15 時～18 時 キテミテマツド 9 階 アートスポットまつど ・内容：①谷口たかひささんによる講演

	講演テーマ「気候変動と自己肯定感」 ②パネルディスカッション 市内で SDGs 推進に取り組む「県立小金高等学校」と小・中学生環境活動家の HARUKI&YUKI さんをお招きし、SDGs 推進に向けたパネルディスカッションを実施 ・参加者：86 名
--	---

④ネットワーク団体との会合【開催 2 回】

日 付	作 業 内 容
2024 年 11 月 29 日	★SDGs ネットワーク団体との会合を同時開催(第 1 回目) ※<u>第 1 回 松戸市 SDGs の取り組み事例発表会と同時開催</u> 実施内容：事例発表に参加してもらいながら SDGs に関する意見交換を実施
2025 年 2 月 26 日	★SDGs ネットワーク団体との会合を同時開催(第 2 回目) ※<u>第 2 回 松戸市 SDGs の取り組み事例発表会と同時開催</u> 実施内容：事例発表に参加してもらいながら SDGs に関する意見交換を実施

(2)事業内容のふりかえり

本事業は、市民における SDGs の理解とその浸透・定着を図り、地域振興や社会課題解決に取り組んでいく市民の行動意識を高めるため、SDGs 推進に関する「①市内の事例集の内容を共有する発表会・意見交換」「②地域学習会」「③フォーラム」「④ネットワーク団体との会合」の 4 つについて、すべて実施することができた。

① 市内の事例集の内容を共有する発表会・意見交換

【第 1 回目】

- ・ 松戸市が千葉県内でも特殊詐欺（電話 de 詐欺）の被害が多いことが話題となり、六高台における特殊詐欺対策（被害防止機器の活用など）について議論した。
- ・ 生ごみ堆肥の品質、諸外国における生ごみ堆肥化の事例、松戸市での普及促進策について意見交換を行った。

【第 2 回目】

- ・ 市民参加型の太陽光発電所、環境と福祉の連携、災害対策、給水スポットやマイ容器の普及、団地断熱 DIY×学生の取り組みなど、多様な活動が紹介された。また、SDGs をチェックリストとして活用する重要性が強調された。
- ・ 清掃活動を通じた地域交流とパートナーシップの強化が紹介され、市民活動の広がりが持続可能なコミュニティ形成に寄与することが示された。

【事例集】

- ・ 12 団体・企業からの事例を Web 掲載した。
Web サイト: <https://sdgsmatsudo.hp.peraichi.com>

② 地域学習会

自団体で会場を用意して行った 2 回（第 3 回、第 4 回）に加え、SDGs ネットワーク団体の会員を対象とした学習会（第 1 回）、市の消費生活展でのパネル展示による学習会（第 2 回）の 4 回実施した。

【第 1 回目】

- ・ 松戸市の「SDGs 未来都市」や「自治体 SDGs モデル事業」など、行政レベルでの SDGs の取り組みを地域住民に周知し、理解を深めることができた。

【第 2 回目】

- ・ アップサイクルやデコ活の概念を市民に紹介し、エシカル消費の重要性を伝えた。
- ・ 約 50 人がパネルに反応を示し、持続可能な消費行動への意識向上につながった。

【第 3 回目】

- ・ 第 3 回目では、企業の SDGs 実践例を共有し、持続可能なビジネスモデルを学習した。
- ・ プラントベース食品の可能性について議論が深まり、食の持続可能性への関心が高まった。

【第 4 回目】

- ・ リサイクル事業の実践例を学び、資源循環の重要性について理解が深まった。
- ・ 建築業界における持続可能な家づくりの事例が紹介され、市民の意識向上につながった。

③ フォーラム

- ・ 当初の計画では、令和 5 年度に実施した SDGs アクション・プランコンテストの受賞団体による取り組みの発表・講演を予定していた。しかし、受賞団体 2 つが 2024 年第 1 回松戸市 SDGs 取組事例発表会で講演を行ったことに加え、SDGs 地域学習会では松戸市の企業の取り組みを紹介したため、内容の重複を考慮し、受賞団体の発表・講演は実施しなかった。

そこで、松戸市の市民社会において、よりインパクトのある SDGs 関連のテーマを検討した結果、集客力のある環境活動家・谷口たかひさ氏に講演を依頼することとなった。

- ・ 本フォーラムは、気候変動と自己肯定感の関係に焦点を当て、市民が主体的に環境問題や SDGs に向き合うきっかけを提供する場として開催された。第 1 部では、環境活動家の谷口たかひさ氏が、気候変動の現状や行動の重要性について講演を行い、「知ることが行動につながる」ことを指摘した。
- ・ 第 2 部のパネルディスカッションでは、市内で SDGs 推進に取り組む県立小金高等学校の生徒や、小中学生の環境活動家が登壇し、実際の取り組みや若者の視点からのアク

ションについて意見を交わした。

- ・ SDGs 情報コーナーでは、松戸市内の取り組み事例が紹介され、参加者に具体的な行動のヒントを提供した。
- ・ 本フォーラムを通じて、気候変動を「自分事」として捉え、地域での持続可能な活動を促進する意識が高まった。

④ ネットワーク団体との会合

- ・ SDGs ネットワーク団体との会合を、第 1 回松戸市 SDGs の取り組み事例発表会、第 2 回松戸市 SDGs の取り組み事例発表会と同時開催で実施した。両回ともに、事例発表に参加してもらいながら SDGs に関する意見交換を行った。
- ・ SDGs 地域学習会で発表してくれた 3 社が新たにネットワーク団体へ加わった。

【全体の運営面】

- ・ 広報については、市の HP で「まつど de SDGs の輪を広げようプロジェクト事業」を紹介するとともに、チラシや応募フォームを掲載することで、市民へ広く周知することができた。

5 事業成果について（事業計画の事業の目標に書かれた項目毎に分けて記載）

- ・ 目標の達成と課題の解決について

① 市内の事例集の内容を共有する発表会・意見交換

- ・ **目標：事例集より 6 事例以上の団体等による取組みを発表する**

実績：4 事例

- ・ 事例発表会は計画通り 2 回実施した。当初は 6 事例の発表を予定していたが、プログラムを構築する中で、2 事例ずつ発表の方が内容の理解を深める上で効果的かつ効率的であると判断し、最終的に 4 事例の発表とした。
- ・ 松戸市における SDGs の取り組みを発表・共有する場として、行政、市民、団体が意見を交わし、実際の課題や解決策について考える貴重な機会となった。特に、第 2 回では「パートナーシップ」「チェックリスト」「住み続けられる街づくり」という重要なテーマが浮き彫りになった。つながりの会では、SDGs の目標 11「住み続けられるまちづくりを」や目標 17「パートナーシップで目標を達成しよう」を中核に据えて本事業を運営しているため、それらの目標に沿った形で事例発表会を進めることができた。
- ・ 今後は、SDGs の理念を日常生活や組織運営の中で具体的な行動に落とし込んでいくためのより具現性のあるアプローチが一層求められる。

② 地域学習会

- ・ **目標：2 回実施、参加者合計 40 人（20 人程度/回）**

実績：4 回実施、参加者合計 102 人（1 回 26 人程度）

- ・ 地域学習会は、全 4 回の実施を企画し、目標の 2 回を上回る形で開催された。
- ・ 地域学習会を通じて、市民・企業・行政の連携を深め、持続可能な社会づくりに向けた意識向上を促進する場となった。地域学習会では、企業や業界の具体的な SDGs の取組事例が紹介され、市民が実践可能なアクションについて考える機会が提供された。また、デジタル消費生活パネル展では、アップサイクルやデコ活の概念を紹介し、日常の消費行動を見直すきっかけとなった。
- ・ 市民のさらなる関心を高めるためには、より多くの参加者を巻き込み、実践を促す仕組みづくりが求められる。今後は、より広範な層へのアプローチや継続的な活動の実施を通じて、市民の行動変容を促し、地域ぐるみで SDGs を推進する環境を整えていくことが重要となる。

③ フォーラム

- ・ **目標：実施 1 回、参加者合計 50 人**

実績：実施 1 回、参加者合計 86 人

- ・ 参加者は 86 人で、当初の目標を達成した。
- ・ 本フォーラムは、単なる講演イベントではなく、「気候変動と自己肯定感」という切り口から、市民が主体的に環境問題や SDGs に向き合う契機となった。若者の積極的な参加も目立ち、次世代へとつながる SDGs 活動にもつなげることができたことは大きな成果である。
- ・ 今後は、このつながりを活かし、地域での具体的なアクションへと発展させていくことが求められる。

④ ネットワーク団体との会合

- ・ **目標：現行の 19 のネットワーク団体に加え、新たに 3 団体が参加して 22 団体へネットワーク団体を広げる**

実績：3 団体、団体合計 22 団体

- ・ 現行の 19 のネットワーク団体に加え、新たに 3 団体が参加して 22 団体へネットワーク団体を広げることができた。

【まとめ】

今後の SDGs 普及啓発における課題として、①認知度と実践のギャップ、②行政・地域・企業や教育機関などのさらなる連携の必要性、③持続可能なまちづくりのあり方、④SDGs のチェックリストとしての活用方法などが挙げられる。これらの課題に対応するためには、より多くの市民を巻き込む普及啓発活動の推進、パートナーシップの強化、具体的な行動につなげる仕組みの構築、地域活動の活性化が重要となる。特に、SDGs の理念を広めるだけ

でなく、具体的な行動変容を促す仕組みを構築することが、今後の大きな課題となる。

6 今後の事業展開

2025 年度も引き続き、松戸市 SDGs 推進担当室と連携し、SDGs 協働事業を推進していく。当会と松戸市の協働を通じて、市民参加型のローカル SDGs の取り組みをさらに拡充し、地域活性化や社会課題の解決に向けた市民の行動意識を一層高めることを目指す。

そのため、以下の 3 つの活動を実施する。

(1) SDGs フェスティバル（まつり）

市民 50 人以上の参加を目標とし、松戸市における SDGs 推進への理解を深め、行動変容を促す。参加者には意見や感想を記入してもらい、その結果を集約・分析し、今後の取り組みに活かす。

(2) SDGs 地域学習会

第 1 回・第 2 回の地域学習会を開催し、合計 70 人の参加を見込む。SDGs への理解を深める機会を提供するとともに、参加者のコメントを集約・分析し、学習会の効果を検証する。

(3) 市民対話集会（松戸市の SDGs に取り組む関係者を対象）

松戸市の SDGs 関係者が集う市民対話集会を開催し、今後の SDGs 推進に向けた意見を取りまとめる。集約した内容は松戸市 SDGs 推進担当室へ提出し、市民社会における SDGs のさらなる推進につなげる。

収支決算書

【労力換算（限度額算入）】

（単位：円）

区分	科 目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	労力換算額（A）	¥ 271,584	¥ 283,176	¥ ▲11,592	※別紙 労力換算計算書 参照

【収 入】

区分	科 目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 41,630	¥ 12,019	¥ 29,611	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額（B）	¥ 41,630	¥ 12,019	¥ 29,611	
市	協働事業負担金（C）	¥ 178,020	¥ 108,162	¥ 69,858	←精算額
合計額（D）＝（B＋C）		¥ 219,650	¥ 120,181	¥ 99,469	

【支 出】

区分	科 目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 90,000	¥ 80,000	¥ 10,000	外部講師謝礼 10,000円×4名 30,000円×1名 5,000円×2名
	消耗品費	¥ 2,000	¥ 382	¥ 1,618	文房具代（コピー用紙） 382円
	印刷製本費	¥ 38,000	¥ 35,369	¥ 2,631	チラシ印刷代 4,750円×2回 3,530円×2回 配布資料コピー代 1,179円、6,689円、5,376円 600円、2,600円、2,365円
	食糧費	¥ 1,800	¥ 0	¥ 1,800	
	使用料及び賃借料	¥ 62,300	¥ 4,430	¥ 57,870	事例発表会実施分 690円、920円 地域学習会実施分 2,010円、810円
	通信運搬費	¥ 3,700	¥ 0	¥ 3,700	
				¥ 0	
				¥ 0	
	対象経費の合計（E）	¥ 197,800	¥ 120,181	¥ 77,619	
（その他経費）	通信運搬費	¥ 1,850	¥ 0	¥ 1,850	
	チラシ・ウェブデザイン	¥ 20,000	¥ 0	¥ 20,000	
	その他経費の合計額（F）	¥ 21,850	¥ 0	¥ 21,850	
合計額（G）＝（E＋F）		¥ 219,650	¥ 120,181	¥ 99,469	

【チェック項目】

- 協働事業負担金（C）が、対象となる経費（E）欄の90%以内であること。
- 協働事業負担金（C）が、自己資金（B）欄に労力換算額（A）欄を加えた額を超えないこと。
- 協働事業負担金については、50万円を上限とする。
- 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。

精算額	¥ 69,858
-----	----------

収支内訳書

【収 入】

区分	科 目	金 額	内訳・説明事項
団 体	団体拠出金	¥ 12,019	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額	¥ 12,019	
市	松戸市負担金	¥ 108,162	
合 計 額		¥ 120,181	

【支 出】

科 目		金 額	内訳・説明事項（用途など）
負担金の 交付対象経費	報償費	¥ 80,000	講師謝礼 ・第3回地域学習会実施分 小亀氏 10,000円×1回、舎川氏 10,000円×1回 ・第4回地域学習会実施分 仁木氏 10,000円×1回、平野氏 10,000円×1回 ・SDGsフォーラム実施分 谷口氏 30,000円×1回、チーム「シャズ」様 5,000円×1回、 Shine earth様 5,000円×1回
	消耗品費	¥ 382	文房具代 ・SDGsフォーラム実施分 コピー用紙 382円
	印刷製本費	¥ 35,369	広報チラシの印刷代 ・第1回事例発表会実施分 4,750円（1,000部） ・第3回地域学習会実施分 4,750円（1,000部） ・第4回地域学習会実施分 3,530円（1,000部） ・第2回事例発表会実施分 3,530円（1,000部） ・SDGsフォーラム実施分 1,179円（試し刷り）、6,689円（1,200部）、5,376円（追加800部） 配布資料コピー代 ・第4回地域学習会実施分 600円（5頁×12部×10円） 2,600円（13頁×20部×10円） ・SDGsフォーラム実施分 2,365円（50部）
	使用料及び賃借料	¥ 4,430	会場使用料 ・第1回事例発表会実施分 690円（六実市民センター第2和室他、3時間） ・第3回地域学習会実施分 2,010円（六実市民センター第1会議室、アンプ、スピーカー、マイク他、3時間） ・第4回地域学習会実施分 810円（男女共同参画センターゆうまつど研修室、3時間） ・第2回事例発表会実施分 920円（松戸市勤労会館2階会議室B、3時間）
	対象経費の合計	¥ 120,181	
その他 経費			
	その他経費の合計	¥ 0	
合 計 額		¥ 120,181	

労力換算計算書

(単位:円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×1026円
	①松戸SDGs事例集の内容を共有する発表会・意見交換打合せ	32,832 円	4 人 × 2 h × 4 回 × 1026 円
	発表会・意見交換会の準備	8,208 円	4 人 × 1 h × 2 回 × 1026 円
	発表会・意見交換会の実施	57,456 円	4 人 × 7 h × 2 回 × 1026 円
	発表会・意見交換会の事後処理	8,208 円	2 人 × 2 h × 2 回 × 1026 円
	②SDGsの地域学習打合せ	16,416 円	4 人 × 1 h × 4 回 × 1026 円
	地域学習会の準備	8,208 円	4 人 × 1 h × 2 回 × 1026 円
	地域学習会の実施	57,456 円	4 人 × 7 h × 2 回 × 1026 円
	地域学習会の事後処理	8,208 円	2 人 × 2 h × 2 回 × 1026 円
	③松戸SDGsフォーラム打合せ	24,624 円	4 人 × 2 h × 3 回 × 1026 円
	フォーラムの準備	24,624 円	4 人 × 3 h × 2 回 × 1026 円
	フォーラムの実施	28,728 円	4 人 × 7 h × 1 回 × 1026 円
	フォーラムの事後処理	8,208 円	2 人 × 2 h × 2 回 × 1026 円
			人 × h × 回 × 円
			人 × h × 回 × 円
			人 × h × 回 × 円
			人 × h × 回 × 円
			人 × h × 回 × 円
合 計 (A)		283,176 円	

『まつどちゃん』シリーズ製作事業

まつどアソビティ

活動状況報告書

1 事業名称 『まつどちゃん』シリーズ製作 事業

2 実施主体

■団体名：まつど アソビティ

従事者数：5名

団体概要：子どもの「遊ぶ権利」を保障する視点から、子ども達が経験する「あそび」の価値を重視し、松戸市の子ども達が自治的に、且つ、豊かにあそぶことができる場と機会を創出するために活動を行う。

3 事業の実施内容（事業計画書の事業内容に書かれた事業毎に分けて記載）

(1) 事業内容

日 付	作 業 内 容
4月10日～	随時、制作協力者との事業内容・企画の検討
5月1日～	Instagramで出演者募集
6月10日～	出演者募集のパンフレット制作
6月23日	撮影1回目『松戸の子供たちが作る芋煮会！？ いもねぎキッズの記録』
7月6日	撮影2回目『今年のYouTube 企画について説明します！』
7月4日	打ち合わせ『『ドゥ・メーカー』でプチ修行！！』
7月11日～	配信『今年のYouTube 企画について説明します！』
7月20日～	出演者募集のパンフレット印刷・配布
7月31日	撮影3回目『『ドゥ・メーカー』でプチ修行！！』
7月30日	撮影4回目（冒険会議）『新松戸らへんで、釣り・森・ベリーな大冒険！！』
8月13日	配信『『ドゥ・メーカー』でプチ修行！！前編』
8月17日	配信『『ドゥ・メーカー』でプチ修行！！後編』
8月20日	撮影5回目『『科学と芸術の丘』で、まつどちゃんがカタリストになってみた！！』
8月21日	撮影6回目『松戸の子供たちが作る芋煮会！？ いもねぎキッズの記録』
8月25日	撮影7回目（取材）『新松戸らへんで、釣り・森・ベリーな大冒険！！』
8月28日	撮影8回目『松戸の子供たちが作る芋煮会！？ いもねぎキッズの記録』

9月8日	撮影9回目『『科学と芸術の丘』で、まつどちゃんがカタリストになってみた！！』
9月16日	撮影10回目『『科学と芸術の丘』で、まつどちゃんがカタリストになってみた！！』
9月25日	配信『新松戸らへんで、釣り・森・ベリーな大冒険！！』
10月5日	配信『プレーパークで流しそうめん!! 冒険遊び場まつどあそぼうよ』
10月6日	撮影12回目『『科学と芸術の丘』で、まつどちゃんがカタリストになってみた！！』
10月13日	撮影13回目『『科学と芸術の丘』で、まつどちゃんがカタリストになってみた！！』
10月23日	配信『『科学と芸術の丘』で、まつどちゃんがカタリストになってみた！！』
11月8日	配信『まつどちゃんが「異形土器」展に、おじゃまします！！ 松戸市立博物館』
11月8日	撮影14回目『まつどちゃんが「異形土器」展に、おじゃまします！！ 松戸市立博物館』
12月28日	撮影15回目『松戸の子供たちが作る芋煮会！？ いもねぎキッズの記録』
1月19日	配信『松戸の子供たちが作る芋煮会！？ いもねぎキッズの記録』

(2)事業内容のふりかえり

- ・出演者の募集は、インスタグラムの投稿・パンフレットの配布（学校配布・イベント配布）等で行った。
- ・制作協力者らと対面・オンラインでのミーティングを行い、企画の検討等を行った。
- ・撮影は15回行った。そこから8本の動画をYoutubeで配信した。

配信動画

『今年のYouTube企画について説明します！』
『大人気ドーナツショップ『ドゥ・メーカー』でプチ修行！！』前編
『大人気ドーナツショップ『ドゥ・メーカー』でプチ修行！！』後編
『新松戸らへんで、釣り・森・ベリーな大冒険！！』
『『科学と芸術の丘』で、まつどちゃんがカタリストになってみた！！』
『まつどちゃんが「異形土器」展に、おじゃまします！！』
『プレーパークで流しそうめん!! 冒険遊び場まつどあそぼうよ』
『松戸の子供たちが作る芋煮会！？ いもねぎキッズの記録』

- ・配信は、本団体が運営する『まつどちゃんのちゃんねる』（旧・松戸キッズチャンネル）にて行った。

<https://www.youtube.com/channel/UC8kDk8q2baaUBsk4N7cgaYA> ▶



- ・事業の現在の状況を鑑み視聴者の満足度・再生回数等の面での成果は重要ではないと判断し、視聴者へのアンケートフォームでの感想等の回収は行わず、出演者・協力者への直接の聞き取りの方法を行った。

本人・保護者への聞き取りからは、まつどちゃんとして出演した子供たちは、本事業へ非常に意欲的であり、撮影日を心持ちにしている子供が多かったようである。

協力者は、地域の子供との映像制作という慣れない活動は、難しさも感じていたようである。難しさには大きく、子供と協働的に活動するという難しさと、映像製作自体の難しさの二つが挙げられた。一方で、いずれの出演者・協力者も、自身の取り組みや、活動等への思いを、地域の子供達（まつどちゃん）や視聴者に伝えられることは、有意義であるという考えをあらかじめ持っており、本事業の取り組みへの本質的な共感を示してくれていた。

・『大人気ドーナツショップ『ドゥ・メーカー』でプチ修行！！』『松戸の子供たちが作る芋煮会！？ いもねぎキッズの記録』の二つの企画は、本団体が主催する「あそびやしき」及び「いも×ねぎ」のオフラインでの対面式のあそび場とのコラボレーション企画として実施した。事前の取材や準備を行い映像配信を行うことで、子供たち自身が自分たちの遊び場を盛り上げ、主体的に遊び場に関与することができた。対面型の場とオンライン空間との、ハイブリットな地域のあそび環境のモデル構築を具体的に進めることができた。

- ・消耗品費を使用しなかったため、『新松戸らへんで、釣り・森・ベリーな大冒険！！』の回の施設利用料を使用料及び賃借料として計上しました。

4 事業成果について（事業計画書の事業の目標に書かれた項目毎に分けて記載）

・目標の達成と課題の解決について

① シリーズ動画の総再生回数 2 万回

・動画の再生回数は 1601 回、並行して行ったInstagramでのショート動画の再生回数は 6759 回であった。

② 制作に関わる市民 100 人

・出演者は、松戸の子どもたち（まつどちゃん）16名（メイン出演10名・サポート出演6名）、松戸市民20名。企画に関わった人は7名。その他、出演者の保護者・動画制作に関わった人は20名。計63名ほどが関与した。現代の社会環境を鑑みたときの本質的な成果として、これまで同じ地域に暮らしながら直接関わることのなかった大人と子供が、協働的な関係性で関与する機会となったことが大きな成果であると言える。

5 今後の事業展開

・事業構造の見直しとして、子供たちが主体的に取り組める体制や仕組み作りが必要である。子供たちが楽しみながら実質的に地域に貢献できるシステムを確立し持続させることで、子供が子供らしく活躍できる社会的ポジションを見出すことが期待できる。具体的なアイデアとしては、まつどちゃんを松戸の子供達による実動的な集団として組織することなどが考えられる。地域の人や団体からのミッションやリクエストに応える形で、子供たち自身が明確な目的や役割意識を持って取り組める環境を作り、それを見守り、サポートすることで子供たちが地域社会に有機的に参画していくことができると考えられる。

・事業成果の2点目に挙げた、地域の大人と子供の協働的な関係性の構築をさらに実りあるものにしていくためにも、子供を取り巻く現代の「してあげる／してもらう」という一方的な関係性を相対化し、本質的な意味での「子供まんなか」の社会への糸口を見出していく必要がある。

収支決算書

【収 入】

(単位：円)

区分	科 目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 40,000	¥ 36,482	¥ 3,518	事業費の一部を団体の会計より拠出
				¥ 0	
				¥ 0	
				¥ 0	
	自己資金の合計(A)	¥ 40,000	¥ 36,482	¥ 3,518	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	¥ 78,246	¥ 21,754	←精算額
合計額 (C) = (A + B)		¥ 140,000	¥ 114,728	¥ 25,272	

【支 出】

区分	科 目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 70,000	¥ 49,000	¥ 21,000	出演者謝礼 (子ども10名/29000円) / 制作協力費 (5000円 × 4回)
	消耗品費	¥ 10,000	¥ 0	¥ 10,000	
	印刷製本費	¥ 40,000	¥ 26,390	¥ 13,610	パンフレット印刷費 (26390円)
	使用料及び賃借料	¥ 0	¥ 11,550	¥ ▲11,550	取材費(11550円)
				¥ 0	
				¥ 0	
				¥ 0	
	対象経費の合計(D)	¥ 120,000	¥ 86,940	¥ 33,060	
(その他対象外経費)	撮影機器	¥ 20,000	¥ 27,788	¥ ▲7,788	ディスプレイ・HDMIケーブル・カメラ用クランプ
				¥ 0	
				¥ 0	
	その他経費の合計額(E)	¥ 20,000	¥ 27,788	¥ ▲7,788	
合計額 (F) = (D + E)		¥ 140,000	¥ 114,728	¥ 25,272	

【チェック項目】

- 1 助成金(B)が、対象となる経費(D)欄の90%以内であること。
- 2 自己資金 (A) 欄が、「対象経費 (D) 欄の10%以上」であること。
- 3 助成金(B)が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。
- 4 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。

精算額	¥ 21,754
-----	----------

別紙 1

収支内訳書

【収 入】

区分	科 目	金 額	内訳・説明事項
団体	団体拠出金	¥ 36,482	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額	¥ 36,482	
市	市民活動助成金	¥ 78,246	
合 計 額		¥ 114,728	

【支 出】

	科 目	金 額	内訳・説明事項（用途など）
助成金の 交付対象 経費	報償費	¥ 49,000	出演者謝礼（子ども10名/29000円）／制作協力費（5000円×4回）
	印刷製本費	¥ 26,390	パンフレット印刷費（26390円）
	使用料及び賃借料	¥ 11,550	取材費（『新松戸らへんで、釣り・森・ベリーな大冒険！！』の回の施設利用料11,550円）
	対象経費の合計	¥ 86,940	
その他経費	撮影機器	¥ 27,788	ディスプレイ・HDMIケーブル・カメラ用クランプ
	その他経費の合計	¥ 27,788	
合 計 額		¥ 114,728	

「おひとりさま安心」講演会・相談会事業

特定非営利活動法人
おひとりさま安心コンシェルジュ

活動状況報告書

1 事業名称 「おひとりさま安心」講演会・相談会事業

2 実施主体

■団体名： 特定非営利活動法人おひとりさま安心コンシェルジュ

従事者数： 4名

団体概要： 高齢者、高齢単身者、障がい者（以下「高齢者・障がい者等」という）が安心して日常生活が過ごせるように権利の擁護と財産の管理、福祉、介護等について支援することにより、高齢者等の福祉の増進に寄与すること

3 事業の実施内容（事業計画書の事業内容に書かれた事業毎に分けて記載）

(1) 事業内容

①「おひとりさま安心」講演会

日 付	作 業 内 容
3 月 18 日	フレイル予防の講演・体験会および終活相談会 フレイルの危険性を周知し、自らの危険度を確認・予防できる後援会。併せて、終活全般の相談会を実施し、将来の不安を低減ができる相談会。

②「おひとりさま安心」相談会

日 付	作 業 内 容
1 月 30 日	安心生活相談会 お困りの高齢者や障がい者をはじめ困難に直面した方々に対する相談会を行い、生活支援や法的支援（身元保証、事後事務、成年後見等）につなげる相談会 来場者：1名
2 月 26 日	安心生活相談会 お困りの高齢者や障がい者をはじめ困難に直面した方々に対する相談会を行い、生活支援や法的支援（身元保証、事後事務、成年後見等）につなげる相談会 来場者：1名

③地域包括支援センター、自治会への周知活動

日 付	作 業 内 容
3 月	上記「おひとりさま安心」講演会の開催に向けて、特に会場となる市民劇場の付近の地域包括支援センター、自治会への周知活動を行った。また、各会員とつながりが深い地域包括支援センターへの開催周知と合わせて、成年後見の支援等の周知を行った。

(2)事業内容のふりかえり

①「おひとりさま安心」講演会

・フレイル予防の講演・体験会および終活相談会

周知方法「広報まつど」であり、開催日の3日前の直前であったものの、参加者は、12名程度のため、数的には評価は難しい。

しかしながら、今年の相談会や昨年実施の相談会・講演会とは異なり、担当者へ電話連絡も5本ほどあり、参加者と問い合わせの比率が高いことであることから、松戸市民の高齢者の健康への興味が高いと思われ、開催の意義があったと考えている。

また、講演内容は、フレイルの危険や予防について初歩的なものであるが、ほぼ全員が、講演会後の体験会に参加していたことから、今後、松戸市が推進する健康増進などに興味をもってもらうなど、高齢者の健康に一役買ったと思っている。

実施回数について、メンバーの仕事などで打ち合わせの機会の減少や開催日の調整が難航し、計画では3回であったものの、何とか1回開催することができた。

②「おひとりさま安心」相談会

事前の周知が「広報まつど」への掲載であり、昨年度は予約枠が埋まっていたが、今年度は、2回開催したものの、それぞれ1組づつとなった。昨年の相談会は、今年は、1組となった理由としては、開催時期が寒い時期で、高齢者にとって外出する機会が低下したことがあげられる。

相談内容については、成年後見の種類（法定後見、任意後見など）や費用面（専門職と親族など）をはじめ、入院、死後の手続きなど、ご自身が心配されている事柄について、説明し、一定の方向性を示すことができた。

実施回数について、メンバーの仕事などで打ち合わせの機会の減少や開催日の調整が難航したが、2回開催することができた。

③地域包括支援センターおよび自治会への周知活動

今年は、主に講演会開催の周知活動になってしまい活動量が低下したものの、包括支援センターではチラシを置いてもらったり、ある自治会では、駅前の人通りが多く立ち止まって見てもらえる掲示板に掲示していただくことなど、今後は、相談会や講演会を開催することを理由に訪問する機会を増やしていき、高齢者の成年後見などの支援につなげていきたい。

4 事業成果について（事業計画書の事業の目標に書かれた項目毎に分けて記載）

・目標の達成と課題の解決について

① 松戸市民等に「おひとりさま」の意識の醸成

【目標】200名

実際の参加者は、15名程度であった。目標に達しなかった理由としては、メンバーの仕事などで打ち合わせの機会の減少や開催日の調整が難航してしまうなどNP0の活動量が減少しており、予定していた3回実施に至らず1回にとどまってしまった。

また、講演会の周知活動が、主な手段である広報まつどへの掲載が開催3日前となったことなど、後手に回ったことが大きな理由である。

今後は、多くのNP0が抱える悩みである活動量の低下について、当助成事業団体であったことを魅力として、新規メンバーの加入をしていき、回復を図っていきつつ、講演会の回数を上げていきたい。

また、講演会・体験会については、15名程度であったが、フレイル予防の知識的なことだけでなく、講師の指示に合わせて体を動かす参加者が多く、更に講演後の体験会はほぼ参加するなど、市民にとって興味あるテーマであったことから、今後も健康など高齢者の興味のある講演会をしつつ、高齢者の成年後見支援に力を入れていきたいと感じている。

② 市民・ケアマネージャー、福祉施設等からの相談

【目標】15件

実際の相談者は、延べ2件であるが、当NP0への相談も含めると15件以上あり、昨年の助成事業等の効果も含めると、一定の相談実績があったと考えている。

他方、当年の助成事業での相談者は、2件であることについて、周知活動がうまく機能しなかったと考えている。

「広報まつど」は、有力な周知方法であり、昨年度はほぼ満杯であったが、本年から見ると、成年後見の相談は、他の各種団体も行っているなど相談手段が多様にあることから、今後は、訴求力ある周知方法を模索していく必要がある。

一方で、相談者の方から、相談会に出席することに、敷居が高いとのご意見を頂いたもので、成年後見を前面に押し出さず、周辺的なテーマも併用することの必要性を感じた。

③ 身元保証等が必要な高齢者に適切なサービスを繋げるについて

当年は、助成事業での相談者が2組とのことで、適切なサービスに繋げることはできなかった。相談者を増やして、多くの独居高齢者および関係者に対して成年後見支援をしていきたいと考えている。

5 今後の事業展開

現在、成年後見などの終活への興味があるが、多様な相談手段が雑多にあるため、当 NPO の特色や強みについて、市民の方への周知し、信頼を得ていき、多くの相談を実施していきたい。そのうえで、おひとりさまの不安だけでなく、実際の身上監護をはじめ法的な支援をしていきたい。

収支決算書

【収 入】

(単位：円)

区分	科 目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 63,670	¥ 2,028	¥ 61,642	事業費の一部を団体の会計より拠出
				¥ 0	
				¥ 0	
				¥ 0	
	自己資金の合計額 (A)	¥ 63,670	¥ 2,028	¥ 61,642	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	¥ 18,252	¥ 81,748	←精算額
合計額 (C) = (A + B)		¥ 163,670	¥ 20,280	¥ 143,390	

【支 出】

区分	科 目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
助成金の交付対象経費	使用料及び賃借料	¥ 59,670	¥ 20,280	¥ 39,390	講演会 (1回) 松戸市民劇場ホール使用料8800円 講演会@18250 相談会@880円, @1150 プロジェクター等使用料9120円 控室330円 相談会 (2回) 松戸市民会館会議室使用料2030円
	食料費	¥ 6,000	¥ 0	¥ 6,000	
	消耗品費	¥ 12,000	¥ 0	¥ 12,000	
	印刷製本費	¥ 30,000	¥ 0	¥ 30,000	
	委託料	¥ 20,000	¥ 0	¥ 20,000	
	通信運搬費	¥ 36,000	¥ 0	¥ 36,000	
				¥ 0	
				¥ 0	
	対象経費の合計 (D)	¥ 163,670	¥ 20,280	¥ 143,390	
(その他対象外) 経費				¥ 0	
				¥ 0	
				¥ 0	
	その他経費の合計額 (E)	¥ 0	¥ 0	¥ 0	
合計額 (F) = (D + E)		¥ 163,670	¥ 20,280	¥ 143,390	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が、対象となる経費 (D) 欄の90%以内であること。
- 2 自己資金 (A) 欄が、「対象経費 (D) 欄の10%以上」であること。
- 3 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。
- 4 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。

精算額	¥ 81,748
-----	----------

別紙 1

収支内訳書

【収 入】

区分	科 目	金 額	内訳・説明事項 ※収支決算書の積算内訳の詳細を記載
団 体	団体拠出金	¥ 2,028	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額	¥ 2,028	
市	市民活動助成金	¥ 18,252	
合 計 額		¥ 20,280	

【支 出】

	科 目	金 額	内訳・説明事項（用途など） ※収支決算書の積算内訳の詳細を記載
助成 対象 経費 の 交 付 対	使用料及び賃借料	¥ 20,280	講演会（1回） 松戸市民劇場ホール使用料8800円 プロジェクター等使用料9120円 控室330円 相談会（2回） 松戸市民会館会議室使用料2030円
	対象経費の合計	¥ 20,280	
	その他経費の合計	¥ 0	
合 計 額		¥ 20,280	

ぶどうの家 おもしろ実習教室 事業

特定非営利活動法人 葡萄の家

活動状況報告書

1 事業名称 ぶどうの家 おもしろ実習教室事業

2 実施主体

■団体名： 特定非営利活動法人 葡萄の家

従事者数： 5人

団体概要： 当法人は、障がい者やその関係者の人たちに対して、障害者総合支援法に基づくグループホーム（共同生活援助）の設置運営事業や障害に関する人材育成、相談、普及啓発事業などの事業を行い、全ての人々が安心して普通に暮らせる社会づくりに寄与することを目的とする。
地域の人たちに楽しんでもらう企画を提供します。
障がい者や子供、高齢者で遠くに行けない人たちに演奏会やイベントを開催します。

3 事業の実施内容 （事業計画書の事業内容に書かれた事業毎に分けて記載）

(1) 事業内容

ぶどうの家 おもしろ実習教室の実施

日 付	作 業 内 容
4月23日	事業企画 打ち合わせ 1. 今年の工作する作品について 2. 会場手配他、今後の日程について
5月7日	チラシの内容について打ち合わせ 来場者さんに”持参頂くもの”について 会場の予約報告
5月14日	団体ホームページにイベントの告知を掲載
5月24日	松戸市教育委員会の後援が決定
5月29日	松戸市社会福祉協議会の後援が決定
7月1日	月刊ハロー7月号にイベント記事を掲載
7月15日	広報まつどにイベント記事を掲載
7月19日	地域新聞にイベント記事を掲載
8月4日	第10回 おもしろ実習教室「三角ヘリコプター」 開催 まつど市民活動サポートセンター 多目的ホール 76名参加

	「アンケート」「障がいについてのチラシ」を配布
8月5日	アンケート集計作業

(2) 事業内容のふりかえり

おもしろ実習教室

広報まつど 7 月 15 日号にイベント告知の掲載をしました。

柏市・流山市・市川市の広報へ記事の掲載依頼を出しましたが、その市でメインに活動している団体のイベントが優先的に掲載されるために、残念ながら選ばれませんでした。

その代わり、地域新聞が柏市・我孫子市・野田市・流山市・松戸市と広くエリアをカバーしてくれました。

養護学校や障がい者の作業所などにチラシを配りました。

ホームページにイベントの案内を載せました。

ホームページの運用を依頼している企業への情報拡散依頼をしました。

知り合いの方に伝えていただきましたが、都合が合わないとの事でした。今まで、葡萄の家で SNS は、していなかったのですが、今後、SNS での発信もしていく事になりました。

松戸市教育委員会・社会福祉協議会の後援をもらいました。

会場にて「アンケート」「障がいについてのチラシ」を配布しました。

作ったヘリコプターを自由に飛ばせる様に、多目的ホールを全面貸し切りにしました。

10時30分・13時・15時と3回講演を行いました。

計画通りに進み、トラブルや混乱などは起きずに無事終了しました。

障がいのあるかたは、4人ほど来ていました。

一緒の空間で、同じ体験をした事で、障がいのあるなしに関係なく、お互いが身近な存在である事を理解していただいたと思います。

アンケートの結果は、「飛ばせて、良かった。」「丁寧に教えていただきました。」「また、次回も行きたい。」などでした。

公用予約でしたので「使用料及び賃借料」は、かかりませんでした。

その分を、多くの方に案内が出せるように、チラシ等の郵送費にあてました。

障がい理解の為のポスターを会場に掲示する事になり、印刷製本費が発生しました。

地域新聞社にイベントの活動報告を記事にしてもらえるよう依頼しましたが、担当者に伝え

るので、取材する場合は、また、改めて連絡しますとの事でした。

助成事業終了後も活動を多くの方に知ってもらえるよう働きかけていきます。

4 事業成果について（事業計画書の事業の目標に書かれた項目毎に分けて記載）

・目標の達成と課題の解決について

① 1回の講座で50人を集める。 1日3回の講座をひらく。

「1日3回の講座をひらく。」の目標は達成できました。

「1回の講座で50人を集める。」の目標は達成できませんでした。

10:30が25人 13:00が29人 15:00が12人

事業計画を出した時は、会場を松戸市民会館の予定でした。しかし、今回の工作が「三角ヘリコプター」に決まり、高さのある会場が必要となりました。その為、まつど市民活動サポートセンターの多目的ホールに変更になりました。市民会館の方が、集まりやすかったのかかもしれません。また、障がいのある方も、来やすかったかもしれません。

② アンケートの評価で「満足した」を70%以上もらう。

10:30 25人中14人提出 回収率56% 満足度100%

13:30 29人中10人提出 回収率34% 満足度90%

15:00 12人中8人提出 回収率66% 満足度100%

合計 66人中32人提出 回収率48% 満足度96.9%

「満足した」を70%以上もらえた。

家族と一緒に作れて良かったなどの回答が多かったです。

飛ぶように素材が軽い物で作る為、飛んで落ちた後に壊れやすいので、その点が100%満足されていないようでした。

アンケート評価において、障がい者理解に関しては、「障がい」にも色々な種類があるという事を、理解していただきました。

5 今後の事業展開

おもしろ実習教室

障がい者の施設や、作業所には、今回のイベントのチラシと案内状を送りました。

過去に行ったイベント内容や、その時の会場の写真が写っているチラシと一緒に同封すれば、どのようなイベントなのか想像しやすく、障害があっても参加しやすいイベントかが、より分かってもらえたと思います。

障害があっても、安心して参加出来て、科学工作の楽しさを体験してもらうイベントにしたいです。

今後は、コンサートイベントの収益などを使って、毎年続けて行きたいです。

収支決算書

【収 入】

(単位: 円)

区分	科 目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 45,598	¥ 27,716	¥ 17,882	事業費の一部を団体の会計より拠出
	寄付金	¥ 5,000	¥ 5,000	¥ 0	友人・知人より寄付
				¥ 0	
	自己資金の合計 (A)	¥ 50,598	¥ 32,716	¥ 17,882	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	¥ 100,000	¥ 0	←精算額
合計額 (C) = (A+B)		¥ 150,598	¥ 132,716	¥ 17,882	

【支 出】

区分	科 目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
	消耗品費	¥ 106,518	¥ 100,196	¥ 6,322	おもしろ実習教室の工作材料費 (パーツやネジ等 150人分) 24cmプロペラ20本入り×8セット、糸ゴムセット1mm角×10m×27セット (70,752円) コピー用紙A4、ラシヤ紙他 (1,881円) 耐水やすり #600 (193円) バルサ角棒100本他 (8,390円) チャック付きポリ袋 (1,042円) チャック付きポリ袋 (521円) 木工用速乾性ボンド (1,298円) コピー用紙A3他 (1,700円) プリンター用インク (6,336円) チラシ作成の印刷用紙 (1,020円) インク3色パック代 (1,930円) 宛名ラベルシール (540円) ゴミ袋・持ち帰り用ビニール袋 (545円) 養生テープ・ポスター袋 (220円) 細工用両刃鋸 (3,828円)
	使用料及び賃借料	¥ 6,560	¥ 0	¥ 6,560	【公用予約】まつど市民活動サポートセンター 多目的ホール 9時～17時
	通信運搬費	¥ 2,520	¥ 10,020	¥ ▲7,500	チラシ等の郵送 (49件分)
	印刷製本費	¥ 0	¥ 1,000	¥ ▲1,000	障がいについてのポスターA3サイズ 100円×10枚
				¥ 0	
	対象経費の合計 (D)	¥ 115,598	¥ 111,216	¥ 4,382	
(その他経費)	食糧費	¥ 19,500	¥ 12,000	¥ 7,500	講師の昼食代 1,500円×8人
	交通費	¥ 13,000	¥ 7,000	¥ 6,000	講師の交通費 1,000円×7人
	保険料	¥ 2,500	¥ 2,500	¥ 0	ボランティア活動保険 500円×5人
	その他経費の合計額 (E)	¥ 35,000	¥ 21,500	¥ 13,500	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 150,598	¥ 132,716	¥ 17,882	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が、対象となる経費 (D) 欄の90%以内であること。
- 2 自己資金 (A) 欄が、「対象経費 (D) 欄の10%以上」であること。
- 3 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。
- 4 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。

精算額	¥ 0
-----	-----

別紙 1

収支内訳書

【収 入】

区分	科 目	金 額	内訳・説明事項
団 体	団体拠出金	¥ 27,716	事業費の一部を団体の会計より拠出
	寄付金	¥ 5,000	友人・知人より寄付
	自己資金の合計額	¥ 32,716	
市	市民活動助成金	¥ 100,000	
合 計 額		¥ 132,716	

【支 出】

科 目		金 額	内訳・説明事項（用途など）
助成金の交付対象経費	消耗品費	¥ 100,196	おもしろ実習教室の工作材料費（パーツやネジ等 150人分） 24cmプロペラ20本入り×8セット・糸ゴムセット1mm角×10m×27セット（70,752円） コピー用紙A4・ラシヤ紙他（1,881円） 耐水やすり＃600（193円） バルサ角棒100本他（8,390円） チェック付きポリ袋（1,042円） チェック付きポリ袋（521円） 木工用速乾性ボンド（1,298円） コピー用紙A3他（1,700円） プリンター用インク（6,336円） チラシ作成の印刷用紙（1,020円） インク3色バック代（1,930円） 宛名ラベルシール（540円） ゴミ袋・持ち帰り用ビニール袋（545円） 養生テープ・ポスター袋（220円） 細工用両刃鋸（3,828円）
	通信運搬費	¥ 10,020	チラシ等の郵送 レターパックプラス 520円×2・レターパックライト 370円×9・切手120円×5・切手94円×1・切手84円×29・切手840円×3
	印刷製本費	¥ 1,000	障がいについてのポスターA3サイズ 100円×10枚
	対象経費の合計	¥ 111,216	
その他経費	食糧費	¥ 12,000	講師の昼食代 1,500円×8人
	交通費	¥ 7,000	講師の交通費 1,000円×7人
	保険料	¥ 2,500	ボランティア活動保険 500円×5人
	その他経費の合計	¥ 21,500	
計 額		¥ 132,716	

社会起業家・副業家としての創業機運醸成事業

サステイナブルな市民活動研究所

活動状況報告書

1 事業名称 社会起業家・副業家としての創業機運醸成事業

2 実施主体

■団体名： サステイナブルな市民活動研究所

従事者数： 5名

団体概要： 社会性と経済性の両面でインパクトを与えるソーシャルビジネス支援を通じて、市民活動を含む非営利団体が長期的に活動を継続できる社会の実現を目指します。ここでの「経済性」とは、営利目的ではなく、団体が自立的に運営資金を確保できるよう支援することを指します。

3 事業の実施内容（事業計画書の事業内容に書かれた事業毎に分けて記載）

(1) 事業内容

1-1. 社会副業家セミナー

日 付	作 業 内 容
2024 年 4 月 20 日	「社会起業家・副業家としての創業機運醸成事業」キックオフ MTG
5 月 16 日	広報まつど 7/1 号掲載依頼
6 月 7 日	第 1 回社会起業家セミナー、オンライン MTG 協働事業・市民活動助成事業進捗状況報告書送付
6 月 10 日	第 1 回社会起業家セミナー、リアル MTG
6 月 12 日	広報まつど 7/1 号校正
6 月 15 日	第 1 回社会起業家セミナー、チラシポスティング
7 月 1 日	広報まつど 7/1 号掲載
7 月 7 日	第 1 回社会起業家セミナー（参加者 14 名＋スタッフ 6 名） @新松戸市民活動支援コーナー
8 月 19 日～9 月 9 日	事業紹介パネル展示@市役所 1 階連絡通路
9 月 25 日	第 2 回社会起業家セミナー、オンライン MTG
10 月 20 日	第 2 回社会起業家セミナー（開催延期～計画見直し）
11 月 14 日	広報まつど 1/1 号掲載依頼
12 月 11 日	広報まつど 2/1 号掲載依頼
12 月 20 日	広報まつど 1/1 号校正
2025 年 1 月 1 日	広報まつど 1/1 号掲載
1 月 11 日	第 2 回社会起業家セミナー（参加者 4 名＋スタッフ 2 名） @松戸勤労会館

1 月 15 日	広報まつど 2/1 号校正
1 月 28 日	まつど地域活躍塾にて祝辞+2~3 月イベントの告知
2 月 1 日	広報まつど 2/1 号掲載
2 月 13 日	第 3 回社会起業家セミナー、リアル MTG
2 月 24 日	第 3 回社会起業家セミナー（参加者 6 名+スタッフ 2 名） @松戸勤労会館
3 月 8 日	第 4 回社会起業家セミナー（参加者 2 名+スタッフ 2 名） @松戸勤労会館

1-2. 共学共創コミュニティ MTG

日 付	作 業 内 容
2024 年 8 月 11 日	松戸スタートアップオフィスの会議室利用の相談
8 月 24 日	共学共創コミュニティ MTG (7 名) @松戸スタートアップオフィス
9 月 28 日	共学共創コミュニティ MTG (4 名) @松戸スタートアップオフィス

(2) 事業内容のふりかえり

「社会起業家・副業家としての創業機運醸成事業」は、松戸市内の市民活動団体が直面している「活動資金の確保」や「後継者不足」といった課題に対応するために始まりました。私たちの目標は、特に現役会社員の方々が市民活動に参加しやすくし、活動を長く続けられるようにすることです。

まず、1-1 の「社会副業家セミナー」では、地域貢献をしたいと思っている現役会社員に向けて、どのように市民活動に関わり、貢献できるのかを考える機会を提供しました。このセミナーには外部の講師や先輩起業家の方々も登場し、実際の体験を交えたお話を聞くことで、参加者が自分の力をどう活かせるかを考えました。またこれからの人生デザインを考えるきっかけとしても機能できたと考えており、大変学びの多い企画となりました。

次に、1-2 の「共学共創コミュニティ MTG」は、セミナー終了後も参加者が継続的に学び合い、サポートし合える場を作ることを目指し、開催しました。現役世代が社外でつながり合える場はなかなかないので、この取り組みはとても価値があり、有意義であると感じました。ただ運営的には課題も見つかり、計画通り実行できませんでした。会場については、当初、松戸市市民会館を考えていましたが、集まりの場を自己実現に向けた「起業」マインドを養いたいと強く思い、松戸スタートアップオフィスへご相談、使用許可を得た経緯があります。

全体として、セミナーは順調に進みましたが、コミュニティづくりには少し時間がかかることがわかりました。今後は参加者同士がもっと深く関わり合えるような支援が必要だと感じています。

4 事業成果について（事業計画書の事業の目標に書かれた項目毎に分けて記載）

・目標の達成と課題の解決について

目標 1-1: 社会副業家セミナー

本セミナーの目的は、現役社員が地域貢献を意識し、市民活動に参加するきっかけを作ることでした。セミナーを通じて、参加者が自分がどのように地域に貢献できるかを考えるとともに、自分の人生設計を見直す場として機能させることを目指していました。しかし、進めていくうちに、「社会副業家」という言葉が少し難しく、参加者にとってはメッセージが伝わりにくい場面がありました。このため、セミナーの内容を見直し（10月に予定していたセミナーを延期）、よりわかりやすい言葉に変更することにしました。年明けのセミナーからは、改善を図り、「人生の出口戦略会議」といった（やや挑発的な）具体的な表現に変えたところ、現役世代が自分の活動のイメージを持ちやすくなり、セミナーがより効果的になったと感じています。年間3回のセミナー開催でしたが、実際は4回開催できました。ただ参加者目標が、年間60名のところ26名と未達。現役社員に対して集客面で苦戦したところが原因です。

目標 1-2: 共学共創コミュニティ MTG

この目標は、セミナー後も参加者が学び合い、サポートし合えるコミュニティを作ることでした。開催回数8回、継続活動希望者30名を目標としてきましたが、実際のイベント開催数2回、継続活動希望者は23名に留まりました。これについては、チャレンジ要素が強かったため、結果として継続的に月1回のペースでイベントを開催することができませんでした。リアルとオンラインを組み合わせ、参加者同士がつながりを持てるように計画していましたが、現役世代の時間確保の難しさや、彼らの優先順位の付け方に課題があり、定期的に交流の場を提供し続けるのが難しいという問題に直面しました。この点については、今後、参加者の時間や意欲をどのように維持するかを考える必要があると感じています。

5 今後の事業展開

今後は、より多くの人々が気軽に参加できる形で事業を展開していきたいと考えています。具体的には、セミナーの内容をさらに実践的にし、参加者が学んだことを即座に市民活動に活かせるような支援を強化していきます。また、難しい言葉を使わず、よりわかりやすく具体的な方法を伝えることで、より多くの人々が参加しやすくなるよう努めます。

さらに、「共学共創コミュニティ」の運営についても、オンラインとオフラインのバランスを見直し、現役世代が気軽に交流できる場を増やす工夫が求められます。月 1 回のペースでの開催が難しい場合は、参加しやすい方法を取り入れ、例えばオンラインイベントを増やすことで、参加者同士のつながりをより深められるようサポートしていきます。

加えて、来年度からは本事業を基盤に、新しい団体を立ち上げる予定です。この新団体は、100 年時代を見据えた人生リデザインをテーマに、現役世代の人生設計にフォーカスを当て、個人の生き方を支援しながら、市民活動への参加を促進することを目指しています。また、市民活動団体の後継者不足という課題にも取り組み、地域貢献活動をより広げるとともに、持続可能な活動モデルを確立するための解決策を提供できる団体を目指します。新団体の設立により、より多くの人々が市民活動に参加しやすくなり、持続的な社会貢献を実現することを期待しています。そして、最終的には、これらの取り組みが社会副業家の創出へとつながり、より多くの現役世代が社会貢献活動に積極的に関わる社会の実現を目指していきます。

収支決算書

【収 入】

(単位：円)

区分	科 目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 0	¥ 83,952	¥ ▲83,952	事業費の一部を団体の会計から拠出
	講座参加料	¥ 90,000	¥ 14,000	¥ 76,000	セミナー参加費1,000×14人分
				¥ 0	
				¥ 0	
	自己資金の合計（A）	¥ 90,000	¥ 97,952	¥ ▲7,952	
市	市民活動助成金（B）	¥ 100,000	¥ 93,276	¥ 6,724	←精算額
合計額（C）＝（A＋B）		¥ 190,000	¥ 191,228	¥ ▲1,228	

【支 出】

区分	科 目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	60,000	¥ 61,000	¥ ▲1,000	講師謝礼 10,000円×1回 3,000円×1回 16,000円×3回
	消耗品費	10,000	¥ 8,941	¥ 1,059	事業用消耗品 資料印刷用紙 2,245円×1セット インク 6,696円×1セット
	印刷製本費	6,000	¥ 6,240	¥ ▲240	チラシ印刷 1000部（2,090円） 1000部（2,090円） 500部（2,060円）
	委託料	23,300	¥ 24,000	¥ ▲700	チラシ制作・修正一式 8,000円×3回
	使用料及び賃借料	12,500	¥ 3,460	¥ 9,040	会場使用料 1,700円×1回 880円×2回
				¥ 0	
				¥ 0	
	対象経費の合計（D）	¥ 111,800	¥ 103,641	¥ 8,159	
（その他の経費）	旅費交通費	12,000	¥ 9,440	¥ 2,560	1,180円×8回
	通信運搬費	39,600	¥ 39,372	¥ 228	Wi-Fi通信費（3,281円×12ヶ月）
	通信運搬費	22,000	¥ 23,375	¥ ▲1,375	オンライン会議ツール（年契）
	予備費	4,600	¥ 15,400	¥ ▲10,800	会議室料 松戸スタートアップオフィス
	その他経費の合計額（E）	¥ 78,200	¥ 87,587	¥ ▲9,387	
合計額（F）＝（D＋E）		¥ 190,000	¥ 191,228	¥ ▲1,228	

【チェック項目】

- 1 助成金（B）が、対象となる経費（D）欄の90%以内であること。
- 2 自己資金（A）欄が、「対象経費（D）欄の10%以上」であること。
- 3 助成金（B）が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。
- 4 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。

精算額	¥ 6,724
-----	---------

別紙 1

収支内訳書

【収 入】

区分	科 目	金 額	内訳・説明事項
団体	団体拠出金	¥ 83,952	事業費の一部を団体の会計から拠出
	講座参加料	¥ 14,000	社会副業家セミナー7月の参加者14名 1,000円×14人 ※以降のセミナーは参加費無料とした
	自己資金の合計額	¥ 97,952	
市	市民活動助成金	¥ 93,276	
合 計 額		¥ 191,228	

【支 出】

	科 目	金 額	内訳・説明事項（用途など）
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 61,000	講師謝礼 講師名 ブレイフルキャリア研究所 五十嵐 郁一氏 10,000円×1回 講師名 ブレイフルキャリア研究所 五十嵐 郁一氏 3,000円×1回 講師名 ファーストステップ 鈴木雅義氏 16,000円×3回
	消耗品費	¥ 8,941	事業用消耗品 資料印刷用紙 2,245円×1セット インク 6,696円×1セット
	印刷製本費	¥ 6,240	広報チラシの印刷代 社会副業家セミナー7月の実施分チラシ印刷 1000部 (2,090円) 社会副業家セミナー10月の実施分チラシ印刷 1000部 (2,090円) 社会副業家セミナー1,2,3月の実施分チラシ印刷 500部 (2,060円)
	委託費	¥ 24,000	広報チラシのデザイン制作費 社会副業家セミナー7月の実施分チラシ制作・修正一式 (8,000円) 社会副業家セミナー10月の実施分チラシ制作・修正一式 (8,000円) 社会副業家セミナー1,2,3月の実施分チラシ制作・修正一式 (8,000円)
	使用料及び賃借料	¥ 3,460	会場使用料 社会副業家セミナー7月の実施分 新松戸市民センター (1,700円) 社会副業家セミナー1月の実施分 松戸勤労会館・会議室C (880円) 社会副業家セミナー2月の実施分 松戸勤労会館・会議室C (880円)
	対象経費の合計	¥ 103,641	
その他経費	旅費交通費	¥ 9,440	1,180円×8回
	通信運搬費	¥ 39,372	Wi-Fi通信費 (3,281円×12ヶ月)
	通信運搬費	¥ 23,375	オンライン会議ツール (年契)
	使用料及び賃借料	¥ 15,400	共学共創MTG 会議室料 松戸スタートアップオフィス
	その他経費の合計	¥ 87,587	
合 計 額		¥ 191,228	

日本語を母国語としない
子どものための学習支援事業

認定NPO法人外国人の子どものための勉強会

国際推進課

活動状況報告書

1 事業名称 日本語を母国語としない子どものための学習支援事業

2 実施主体

■団体名： 認定NPO法人 外国人の子どものための勉強会

従事者数： 76名

団体概要： 日本語を母国語としない子どもを対象に、真の自立のための日本語学習をはじめとする支援活動をおこなっている。現在、文化ホール教室、常盤平教室、新松戸教室の3つの教室で小・中学生を対象とした定例勉強会を実施しているほか、夏休教室や、高校受験を控えた中学3年生に対し受験教室といった集中勉強会を実施している。

このほか、日本語指導の内容・方法の研究、教材・カリキュラムの作成、国際交流イベントへの参加、参集した子どもの交流親睦を目的にしたイベントなども実施している。

■事業担当課： 国際推進課

3 事業を実施する上での役割分担

■団体の役割： 事業の実施（勉強会の運営、地域との協働）

■担当課の役割： 会場の提供、事業実施に係る情報提供

4 事業の実施内容（事業計画の事業内容に書かれた事業毎に分けて記載）

(1) 事業内容

1. 当勉強会のスタッフ、特に学生スタッフを増やす

(定例勉強会)

文化ホール教室 土曜日 午後 中学生対象	4～3月 実施日数 全 40 日
	実施日：4月6日, 13日, 20日, 27日 5月11日, 18日, 25日 6月1日, 8日, 15日, 22日, 29日 7月6日, 13日 9月7日, 14日, 21日, 28日 10月5日, 12日, 19日, 26日 11月2日, 9日, 16日, 30日 12月7日, 14日, 21日 1月11日, 18日, 25日 2月1日, 8日, 15日, 22日 3月1日, 8日, 15日, 22日 参加生徒数 延べ 464 人 支援スタッフ数 延べ 489 人

常盤平教室 火曜教室 午後 小学生対象	4～3月 実施日数 全 41日 実施日：4月9日, 16日, 23日, 30日, 5月7日, 14日, 21日 28日 6月4日, 11日, 18日, 25日, 7月2日, 9日, 16日, 9月3日, 10日, 17日, 24日, 10月1日, 8日, 15日, 22日, 29日, 11月5日, 12日, 19日, 26日, 12月3日, 10日, 17日, 1月7日, 14日, 21日, 28日, 2月4日, 18日, 25日, 3月4日, 11日, 18日 参加生徒数 延べ240人 支援スタッフ数 延べ250人
常盤平教室 木曜教室 夕方 中学生対象	4～3月 実施日数 全 41日 実施日：4月11日, 18日, 25日, 5月2日, 9日, 16日, 23日, 30日 6月6日, 13日, 20日, 27日 7月4日, 11日, 18日 9月5日, 12日, 19日, 26日 10月3日, 10日, 17日, 24日, 31日 11月7日, 14日, 21日, 28日 12月5日, 12日, 19日 1月9日, 16日, 23日, 30日 2月6日, 13日, 20日, 27日 3月6日, 13日 参加生徒数 延べ205人 支援スタッフ数 延べ200人
常盤平教室 土曜教室 午前 小学生対象	4～3月 実施日数 全 39日 実施日： 4月6日, 13日, 20日, 27日, 5月11日, 18日, 25日, 6月1日, 8日, 15日, 22日, 29日, 7月6日, 13日, 9月7日, 14日, 21日, 28日, 10月5日, 12日, 19日, 26日 11月2日, 9日, 16日, 30日 12月7日, 14日, 21日, 1月11日, 18日, 25日 2月1日, 8日, 15日, 22日 3月1日, 8日, 15日 参加生徒数 延べ218人 支援スタッフ数 延べ248人
常盤平教室 土曜教室 午後 小学生対象	4～3月 実施日数 全 39日 実施日： 4月6日, 13日, 20日, 27日, 5月11日, 18日, 25日, 6月1日, 8日, 15日, 22日, 29日, 7月6日, 13日, 9月, 7日, 14日, 21日, 28日, 10月5日, 12日, 19日, 26日 11月2日, 9日, 16日, 30日, 12月7日, 14日, 21日, 1月11日, 18日, 25日, 2月1日, 8日, 15日, 22日, 3月1日, 8日, 15日 参加生徒数 延べ302人 支援スタッフ数 延べ314人

新松戸教室 水曜日 夕方 小中高生対象	4～3月 実施日数 全 42 日 実施日:4月 10 日, 17 日, 24 日 5月 1 日, 8 日, 15 日, 22 日, 29 日 6月 5 日, 12 日, 19 日, 26 日 7月 3 日, 10 日, 17 日 9月 4 日, 11 日, 18 日, 25 日 10月 2 日, 9 日, 16 日 23 日 30 日 11月 6 日, 13 日, 20 日, 27 日 12月 4 日, 11 日, 18 日 1月 8 日, 15 日, 22 日, 29 日 2月 5 日, 12 日, 19 日, 26 日 3月 5 日, 12 日, 19 日 参加生徒数 延べ 521 人 支援スタッフ数 延べ 543 人
---------------------------	--

(集中勉強会)

夏休み教室	全教室生徒対象 実施日 7月 23 日, 24 日 25 日, 26 日, 27 日 全 5 日 中学生: 参加生徒数 延べ 92 人, 支援スタッフ数 延べ 56 人 小学生: 参加生徒数 延べ 109 人, 支援スタッフ数 延べ 67 人 新松戸教室のみで実施 実施日 8月 26 日, 27 日, 28 日, 29 日 全 4 日 参加生徒数 延べ 28 人 支援スタッフ数 延べ 47 人
受験教室 日曜日・冬休み 午後 ゆうまつど 勤労会館	10月～2月 実施日数 全 22 日 実施日 10月 13 日, 20 日, 27 日, 11月 3 日, 10 日, 17 日, 24 日 12月 1 日, 8 日, 15 日, 24 日, 25 日, 26 日, 27 日 1月 5 日, 6 日, 12 日, 19 日, 26 日 2月 2 日, 9 日, 16 日 参加生徒数 延べ 121 人 支援スタッフ数 延べ 120 人

1- (1) スタッフ養成講座

日 付	作 業 内 容
4月～3月	初期指導研究 G による事業打ち合わせ 15 回 延べ 74 人参加
6月	講演会チラシを市役所本庁舎、各支所に配架依頼。町内・マンション掲示板等にも掲示依頼。HP、広報に掲載
7月 14 日	講演会「日本語初期学習の支援を考える」 松戸市民会館 86 名参加 講師: NPO 法人プラスエデュケート 森顕子氏
10月	学習支援現況調査会員アンケート実施
11月	研修会チラシを主に会員に配布
12月 15 日	日本語初期指導研修会 於) KEN 日本語学院 26 名参加 講師: KEN 日本語学院 軍司聖子氏
2025 年 3 月	初期指導「支援のしおり」を作成、全会員配布用と新規会員用

1- (2) 常盤平新教室の開始

日 付	作 業 内 容
4 月 6 日～	2023 年 9 月より試行していた土曜日午後教室を 2024 年度正式に開始 試行時の新規スタッフがそのまま継続して参加してくれている

2. オンライン授業の導入

日 付	作 業 内 容
6/22, 7/20, 10/19, 12/21	「オンライントークしよう」 延べ生徒参加者 6 人 日本語会話練習を目的に土曜日夕方に開催 在籍中学生に呼びかけフリートーク形式で自己紹介・部活・好きなアニメなど話しあった。
1/18, 2/1, 2/15	「オンライントークしよう」 延べ生徒参加者 3 人 在籍受験生対象に声がけし面接練習を行った。 志望動機・高校で頑張りたい事・将来の夢など日本語で相手に伝わるよう練習した。
1/9, 1/16, 1/23, 1/30, 2/6, 2/13, 2/20	「ESCO の日本語会話ルーム」 延べ生徒参加者 11 人 教室に通えない既卒生対象に木曜日午前に開催 自分の国の紹介・文化の違いなどのテーマで、お互い知らない同士でも助け合いながら会話を進めた。

3. 地域との協働

日 付	作 業 内 容
4 月	流通経済大学共創社会学部教授と学生が教室見学 スタッフとの意見交換会実施
5 月～10 月	千葉商科大学国際教養学部学生の多文化共生授業の一環として当会 教室見学実施。外国人生徒指導体験
6 月	夏休み教室参加募集のチラシを市内全小・中学校に教育委員会を通し 配架依頼
7 月 21 日	流通経済大学の「海の日フェスタ」に参加
7 月 23～27 日	夏休み教室への学生参加 5 日間で大学生高校生延べ 18 人参加

(2) 事業内容のふりかえり

1. 当勉強会のスタッフ、特に学生スタッフを増やす

・スタッフ養成講座開催

市民の中で日本語指導に興味を持ってもらう機会になり、会への参加希望者にも日本語指導の基礎を学べる場としてスタッフ養成講座を企画した。松戸市広報、ホームページへの掲載、市内へのチラシ配布さらに各支所にはA3のチラシ掲載を依頼し、広く呼びかけたのでたくさんの参加者があった。

・2回目養成講座を9月開催予定だったが、7月講座で得たことを反映して次のテーマと講師の選定に時間がかかった。夏休み明けの9月実施には準備期間が足りず12月開催になってしまった。

・計画の変更として、今年度の活動を通して、初めて参加してくれる学生も含むスタッフに日本語初期指導を「初期指導のしおり」として冊子を作成し、まとめたので今後に生かしていきたい。

・夏休み教室への学生参加

今年度は参加依頼先を周辺3大学（千葉商科大・流通経済大学・聖徳大学）に絞り募集した。平日の教室授業も事前に見学の上で、小学生教室・中学生教室に分かれ、会員スタッフによるサポートのもとで参加してもらった。

2. オンライン授業の導入

・各教室で個々のスタッフと生徒で進められている勉強とは別に、教室で行っていない日本語の会話練習をどう行つか検討し「オンライントークをしよう～日本語で話そう」を企画。特に高校受験をひかえた生徒たちの面接対応も念頭に質問に答えたり、好きなことを話す時間を用意した。

スタッフ対象の「オンライン授業のやり方勉強会」は指導する人が決まらず今年度実施できなかったが「オンライントークをしよう」の時間にスタッフも自由に参加してもらったので実践勉強となった。

事業計画で「生徒入会時にオンライン授業希望か否かを問う」という計画があったが不適切との意見がスタッフの中にあり実施はとりやめ、企画毎にチラシで募集することにした。

3. 地域との協働

・本年度は周辺大学との交流深化を図った。

千葉商科大学、流通経済大学イベントへの参加により、大学・学生・地域住民への当会活動のアピール、多文化共生へのアピールを行ったもので、今後も継続して行きたいと考えている。

・事業内容変更の経緯

地域との協働事業は計画時点では、常盤平団地「まんぷく小屋」において学習支援を行うことを計画したが、日本語支援を必要とする子ども達への呼びかけに時間をかけていく必要があったため別事業として行うこととした。

当会はすでに近隣大学との交流も進めていたので事業内容を大学との交流をより深めて、学生及び地域への共生社会参加意識を高めて貰う活動に絞っていった。

〈予算の変更〉

1. 消耗品費

図書、教材費の予算 70,000 円に対し大幅に増えた。本年 2 回実施した「日本語初期指導の講演会」で講師より提案された指導教材を購入したがどちらも高額であった。又その他の入試参考書等も例年より値上げされているものが多く予算を超えてしまった。

2. 使用料の〈オンライン授業用ポケット Wi-Fi 通信料〉

6 月にモバイル型のルーターで Wi-Fi によるオンライン授業を試行したがルーター管理が難しい事が判明した。2 学期からはモバイル型ではなく、場所でのみ利用可能で管理が容易なホームルーター型を常盤平教室に導入した。

3. 使用料の〈夏休み教室〉

夏休み教室の使用料については、領収書現物が受渡の際に所在不明となったため今回申請からはずした。

5 事業成果について

・目標の達成と課題の解決について

① 目標：勉強会の学生スタッフ増（令和 5 年度末人数＋3 名）

スタッフ 76 人から→83 人に 7 名増加（内学生 4 人）

学生は留学や就職等で長期の参加は難しい面があるが、参加はたくさんあった。

② 目標：オンライン授業を実施（10 回）

オンラインによるフリートーク教室を 14 回実施した

③ 目標：地域との交流事業の実施（1 回以上）

近隣大学からの教室見学は 10 回以上あり、夏休み教室など学生が生徒の学習支援にかかわる機会も多々あった。

当会が大学イベントにも出展し、その大学の留学生と共にブースを運営した。

6 今後の事業展開

松戸市の資料からも外国人市民の急増がみられる。それは同時に来日する外国人の子

どもたちもこれまで以上に増えていくと考えられる。外国人の子どもたちの支援活動をしてきた当会はそれに対応できるよう体制を強化していかなければならない。

その為に、まつど地域活躍塾での実地体験やまつど市民活動サポートセンターを通じボランティア参加希望者を積極的に受け入れ、地域の人々が日本語を母国語としない子どもに接する機会を増やし、外国ルーツの子どもたちが地域社会の構成員として育つ環境を共に作ることを目指す。

収支決算書

【労力換算（限度額算入）】

（単位：円）

区分	科 目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 2,918,544	¥ 4,345,110	¥ ▲1,426,566	※別紙 労力換算計算書 参照

【収 入】

区分	科 目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
	団体拠出金	¥ 135,920	¥ 8,947	¥ 126,973	
	生徒参加費	¥ 270,000	¥ 441,000	¥ ▲171,000	3,000円×3学期×49人
	自己資金の合計額 (B)	¥ 405,920	¥ 449,947	¥ ▲44,027	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 500,000	¥ 500,000	¥ 0	←精算額
	合計額 (D) = (B + C)	¥ 905,920	¥ 949,947	¥ ▲44,027	

【支 出】

区分	科 目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 230,000	¥ 103,000	¥ 127,000	外部講師謝金 66,000円×1回 30,000円×1回 外部スタッフ謝金 4,000円×1回 3,000円×1回
	消耗品費	¥ 120,000	¥ 181,450	¥ ▲61,450	コピー機インク 11セット 39,037円 コピー用紙 13束 6,654円 作文用原稿用紙他文房具 4,069円 図書・教材費 131,690円
	印刷製本費	¥ 60,000	¥ 38,915	¥ 21,085	教材コピー 17,560円 資料印刷 7,080円 チラシ印刷 6,406円 しおり印刷 7,869円
	使用料及び賃借料	¥ 346,920	¥ 272,461	¥ 74,459	教室賃借料 256,640円 Wi-Fi通信料 15,821円
	食糧品費	¥ 3,000	¥ 299	¥ 2,701	講師飲物 299円
	対象経費の合計 (E)	¥ 759,920	¥ 596,125	¥ 163,795	
(その他の経費)	交通費	¥ 30,000	¥ 80,600	¥ ▲50,600	事業打合せ会議、学習会等参加 80,600円
	印刷製本費	¥ 30,000	¥ 167,122	¥ ▲137,122	会報制作・印刷費 167,122円
	通信運搬費	¥ 66,000	¥ 57,500	¥ 8,500	会報郵便料金 57,500円
	その他	¥ 20,000	¥ 48,600	¥ ▲28,600	Wi-Fiフィルター 48,600円
	その他経費の合計額 (F)	¥ 146,000	¥ 353,822	¥ ▲207,822	
	合計額 (G) = (E + F)	¥ 905,920	¥ 949,947	¥ ▲44,027	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。
- 4 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。

精算額	¥ 0
------------	-----

収支内訳書

【収 入】

区分	科 目	金 額	内訳・説明事項
	団体拠出金	¥ 8,947	
	生徒参加費	¥441,000	3,000円×3学期×49人
	自己資金の合計額	¥449,947	
市	松戸市負担金	¥500,000	
	合 計 額	¥949,947	

【支 出】

	科 目	金 額	内訳・説明事項（用途など）
負担金の交付対象経費	報償費	¥103,000	講師謝礼プラス・エデュケート森顕子氏66,000円×1回 KEN日本語学院軍司聖子氏30,000円×1回 夏休み教室外部スタッフ大学生2名3,000円×1回4,000円×1回
	消耗品費	¥181,450	コピー機インク11セット39,037円 コピー用紙13束6,654円 文房具1,678円（ボードマーカー396円ドイツ削り139円、他） 作文用原稿用紙1,576円／生徒学習用画用紙・ハガキ815円 各教室図書・教材費131,690円 （学校教科書12,312円・初期指導用ワークブック11,440円・高校受験過去問5,458円、他）
	印刷製本費	¥ 38,915	教材コピー費17,560円 日本語初期指導研修会資料印刷代4,500円 日本語初期指導講演会資料印刷2,580円 初期指導講演会チラシ印刷320部3,238円 夏休み教室チラシ印刷500部3,168円 初期指導「支援のしおり」7,869円
	使用料及び賃借料	¥272,461	常盤平教室1,900×12ヶ月228,000円 新松戸教室（助っ人部屋借）600×12ヶ月7,200円 受験教室（10月～2月ゆうまつど×21回、勤労会館×1回）16,155円 文化ホール教室授業運営会議（ゆうまつど×5回）3,255円 協働事業会議（ゆうまつど×3回）2,030円 オンライン授業用Wi-Fi通信料15,821円
	食糧品費	¥ 299	日本語初期指導講演会7月14日講師飲料181円、12月15日講師飲料118円
	対象経費の合計	¥596,125	
	交通費	¥ 80,600	事業打合せ会議、学習会参加
	印刷製本費	¥167,122	会報制作・印刷代33号¥57,692、34号¥54,174、35号¥55,256
	通信運搬費	¥ 57,500	会報発送代33号～35号¥57,500
	その他	¥ 48,600	Wi-Fiルーター¥48,600
	その他経費の合計	¥353,822	
	合 計 額	¥949,947	

労力換算計算書

(単位：円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×1026円
	講演会準備の為の会合	61,560 円	2 人 × 2 h × 15 回 × 1026 円
	定例勉強会における授業の実施	4,104,000 円	50 人 × 2 h × 40 回 × 1026 円
	集中勉強会の実施	135,432 円	6 人 × 2 h × 11 回 × 1026 円
	オンライン授業の実施	28,728 円	2 人 × 1 h × 14 回 × 1026 円
	地域連携大学イベント参加	15,390 円	5 人 × 3 h × 1 回 × 1026 円
			人 × h × 回 × 1026 円
			人 × h × 回 × 円
			人 × h × 回 × 円
			人 × h × 回 × 円
			人 × h × 回 × 円
			人 × h × 回 × 円
			人 × h × 回 × 円
			人 × h × 回 × 円
			人 × h × 回 × 円
合 計 (A)		4,345,110 円	